

دفترچه راهنمای چرخ خیاطی

ژانومه مدل 625

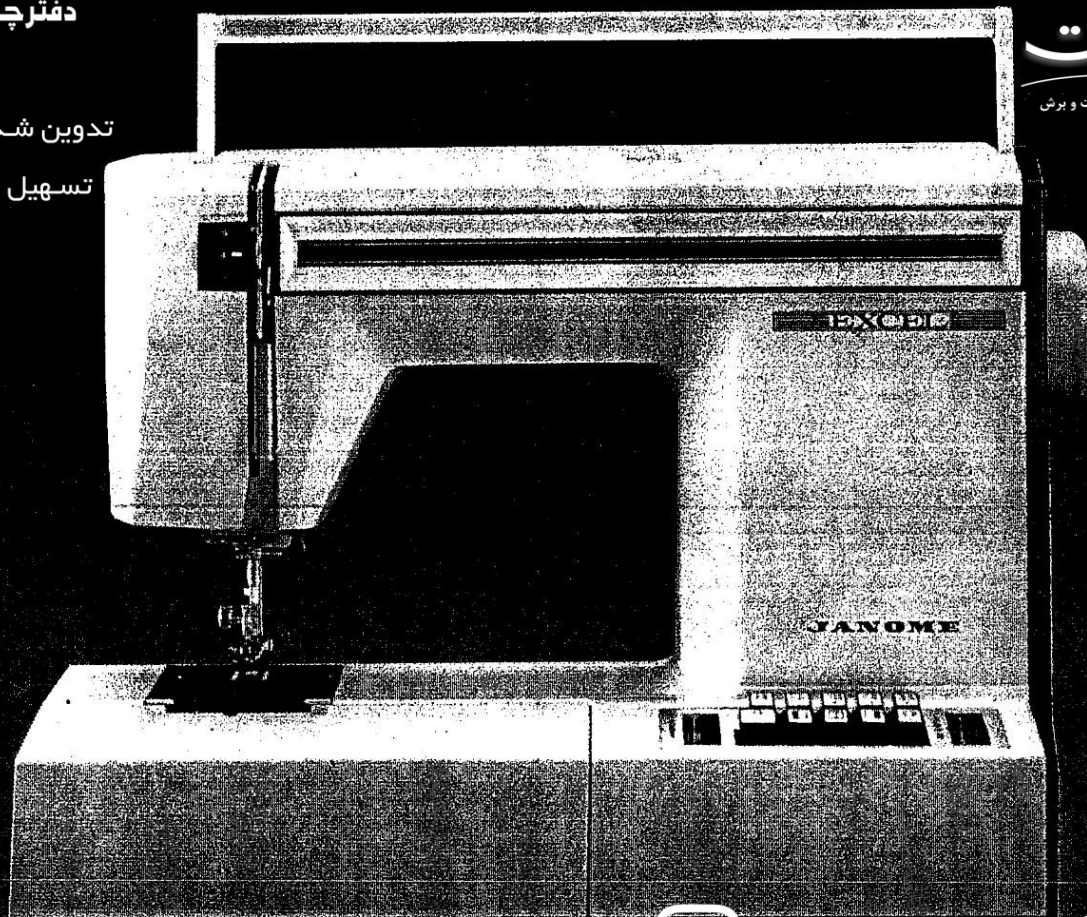
تدوین شده توسط گروه گلدوخت جهت

تسهیل استفاده برای مخاطبان عزیز

بصورت PDF

گلدوخت

آموزش، نقد و بررسی ماشین آلات دوخت و برش



www.golldookht.com



#golldookht



@golldookht

スーパージグザグ 625

ジャノメ エクセル

625型《使い方の手びき》

洋裁上手になりましょう。

ホームソーイング教室



パターン洋裁の基礎から応用までが、簡単に覚えられる教室です。小人数のグループレッスンですから、和気あいあい。スカートやワンピースをつくりながら、パターン洋裁をマスターしましょう。

●楽しみながら、ジグザグミシンの使い方が覚えられるジグザグ教室も開いております。

●ホームソーイング教室、ジグザグ教室についてくわしくは、ジャノメミシン直営支店へお問い合わせください。

ごあいさつ

ジャノメミシンをお買い上げくださいますありがとうございます。
この《使い方の手びき》は、スーパージグザグ・ジャノメエクセル625型をお使いいただくのに必要な基本から応用縫いまでを、説明してあります。

まず、一通り目を通して、正しい使い方を理解され、ホームソーイングをお楽しみ下さい。

なお、当社では《ジグザグ教室》《ホームソーイング教室》を全国の直営支店で開講いたしておりますので、ぜひご参加ください。

スーパージグザグミシン・ジャノメエクセル625型の特長

- ★振巾と送り巾のダイヤルや模様選択ボタンは、手もと近くに配置されていますので、縫い操作が簡単です。しかも模様選びは、プッシュボタン式ですので、使いやすく手軽です。
- ★2つの模様選択ボタンを同時に押すと、模様どうしが組み合わせられ、趣きの異った合成模様が縫えます。
- ★糸通しで、針穴への糸通しが、スピーディーに行なえます。
- ★押えや付属品が、天板の中に、すっきりとコンパクトにおさめられています。
- ★水平全回転かまですから、ボビンケースは必要ありません。しかも、ボビンの出し入れが容易で、下糸の残量を見ながら縫えます。
- ★縫いの速さが、はやい、ゆっくりの2段に切りかえられます。
- ★縫いに適した送りや振巾などが、一目でわかる早見板つきです。

1. 準備

- 各部の名まえとはたらき……2～3
- 早見板と押えポケット……4
- 標準付属品……5
- 補助テーブルのはずし方、つけ方……5

2. 使い方の基本

- 電源のつなぎ方……6
- スライドスイッチの使い方……6
- 速さの調節のし方……6
- 照明ランプ……6
- ドロップレバーの使い方……7
- 押え圧ダイヤルの使い方……7
- 押えのあげ方、さげ方……8
- 押えのはずし方、つけ方……8～9
- 押えホルダーのはずし方、つけ方……9
- 布と糸と針の関係……10
- 針のはずし方、つけ方……10
- 下糸の巻き方……11
- ホビンケースの出し方、入れ方……12
- 上糸の掛け方……13
- 糸通しの使い方……14
- 下糸の引きあげ方……15
- 糸調子の出し方……15

3. 基本縫い

- 直線縫い……16～17
- ジグザグ縫い……17

4. 実用縫い

- 裁ち目がかり……18～19
- ストレッチ(伸縮)縫い……19

- ボタン穴かがり(ボタンホール)……20～21
- 芯入りボタン穴かがり……21～22
- くけ縫い(まつり縫い)……23
- ファスナーつけ……24～25
- コンシールファスナーつけ……26～27
- 三重縫い……27
- 三つ巻き縫い……28～29
- 筒縫い……30

5. 応用縫い

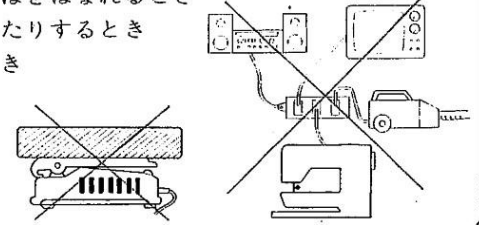
- 自動模様縫い……31
- 合成模様縫い……32
- ピンタック……33
- スモッキング……33
- ギルティング……34
- アップリケ……35
- パッチワーク(はぎ合わせ)……35
- レースつけ……36
- ファゴティング……36
- カットワーク……37
- シェルタック……38
- ギャザーよせ……39
- ドロンワーク……39
- フリンジ縫い……40

6. 手入れと調整

- 外装の手入れ……41
- かまの掃除……41
- かまと送り歯の手入れ……42
- ミシンの調子が悪いときの直し方……43～44

★より安全のために……

- ①ミシンを動かしているとき、針から目をはなさないように注意し、はずみ車、天びん、針などに手を触れないでください。
- ②つぎのようなときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - 使用後
 - ミシンのそばをはなれるとき
 - 部品をつけたり、はずしたりするとき
 - ミシンの手入れをするとき
- ③コントローラーの上には、物をのせないでください。
- ④たこ足配線は、危険ですからやめましょう。



★ご使用の前に……

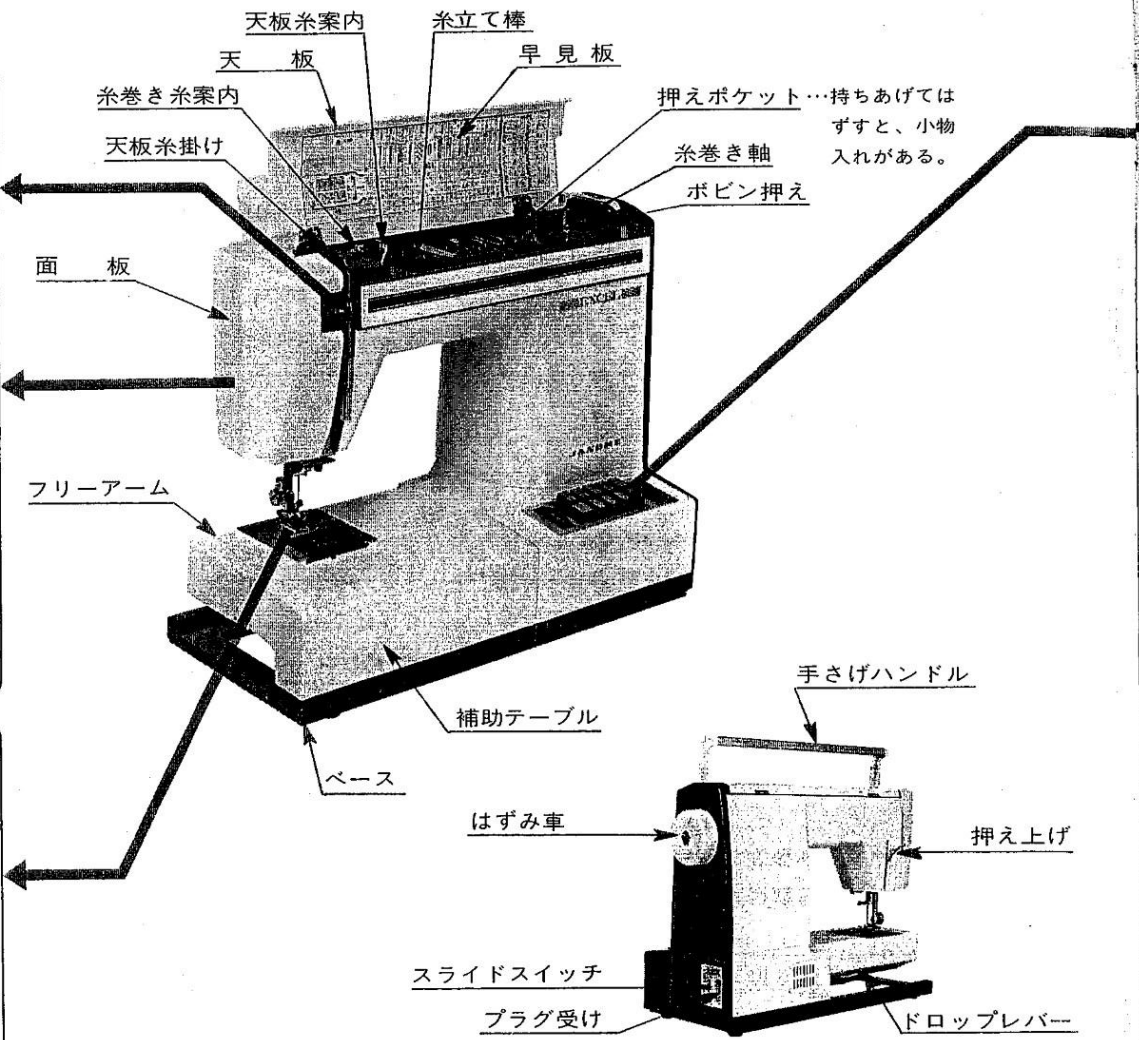
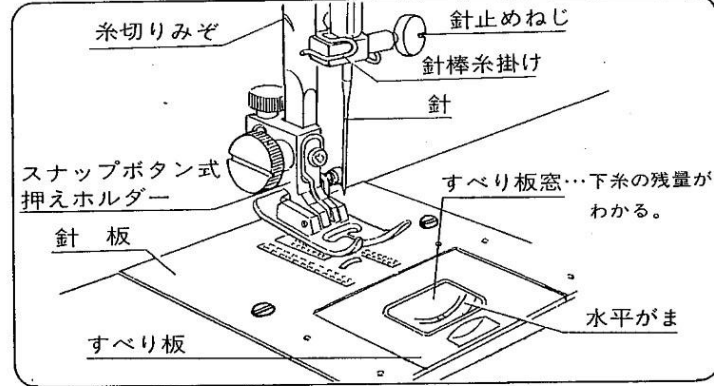
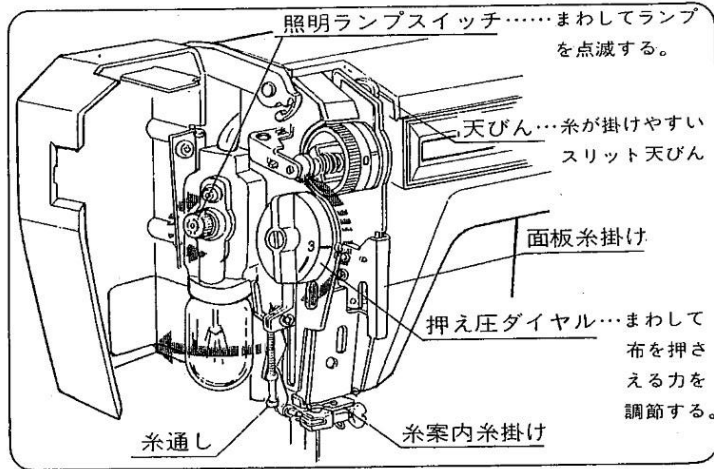
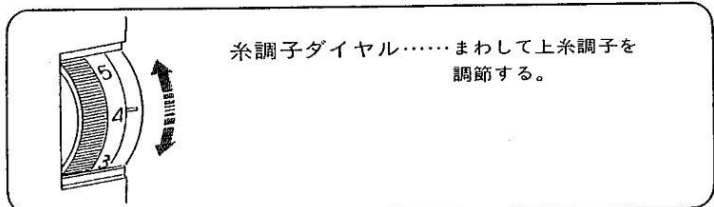
- ①ほこりや油などで布を汚さないように、使う前にミシンをよくふいてください。
- ②ミシンのセットや、押え、針を交換するときには、早見板やこの《使い方の手びき》を見て、正しく、確実にセットしてください。
- ③ミシンをセットしたら、実際に縫うものと同じ布や糸で試し縫いをしてみましょう。

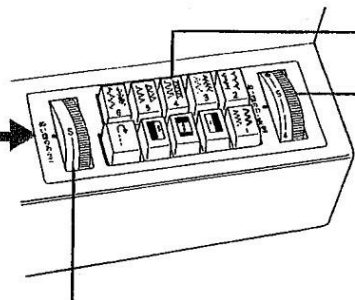
★いつまでもご愛用いただくために……

- ①このミシンは注油の必要がありません。
- ②長時間日光にあてたり、ストーブのそばに置いたりしないでください。
- ③湿気の多いところはさけてください。
- ④落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

●修理、調整についてのご案内

万一不調になったり、故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(43～44ページ)により点検・調整を行なってください。それでも調子が悪いときは、お買い上げいただいた支店、または近くの支店へご連絡ください。





振巾ダイヤル……まわして、縫い目の巾、直線縫いの基線(針位置)、ボタン穴かがりの止め縫いを選ぶ。



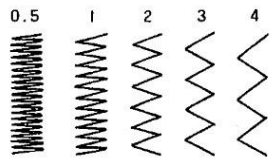
送りダイヤル……まわして、縫い目のあらしとスーパー模様を選ぶ。



■縫い目の巾を「0」に固定して送りダイヤルをかえると下のようにかわる。



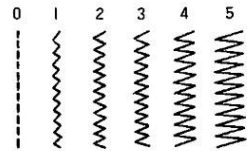
■縫い目の巾を「5」に固定して送りダイヤルをかえると下のようにかわる。



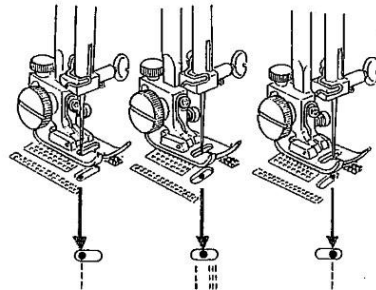
■マーク□(オレンジ色)は、ボタン穴かがりの縫い目のあらしを選ぶ範囲の目安を示す。

■マークS(緑色)は、スーパー模様を縫うときに合わせる。

■送りを「1」に固定して縫い目の巾をかえると下のようにかわる。



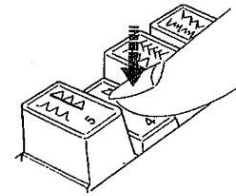
■直線縫いの基線(針位置)をかえると下のようにかわる。



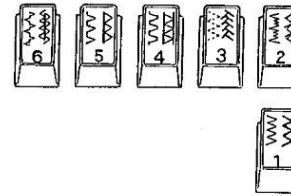
左基線 (左針位置) 中基線 (中針位置) 右基線 (右針位置)

■ボタン穴かがりの止め縫いを選ぶときは、ダイヤルをまわしてマーク●に合わせている間は、ボタン穴かがりの止め縫いをする。

模様選択ボタン……ボタンを押して縫い目を選ぶ。とり消すときは、他のボタンを押す。



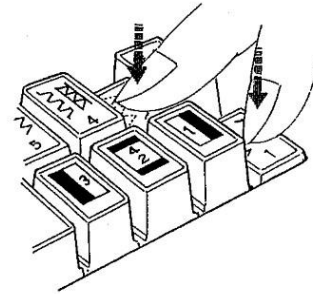
※模様選択ボタンは、振巾ダイヤルをセットしてから押してください。
※ボタンを押すときは、針を布からあげてください。



■模様は、ボタン穴かがりを除いて、ジグザグ模様(赤色)、スーパー模様(緑色)、それぞれ6個のボタンに表示してある。

■ボタンを2つ一語に押して模様をセットすると、合成模様になる。

※組み合わせは、早見板や32ページを参照してください。



■ボタン穴かがりのときは、ボタンを1→2→3→4の順に押して、選ぶ。

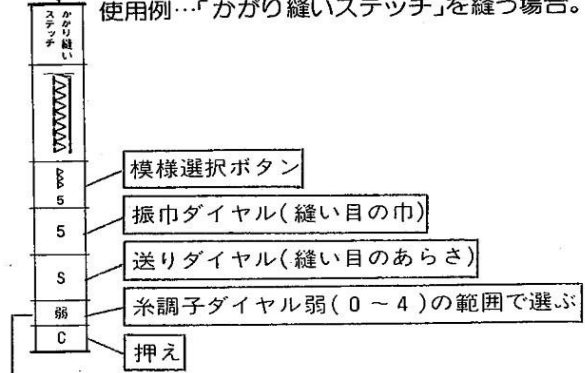


■返し縫いボタンを押している間は、返し縫いをする。

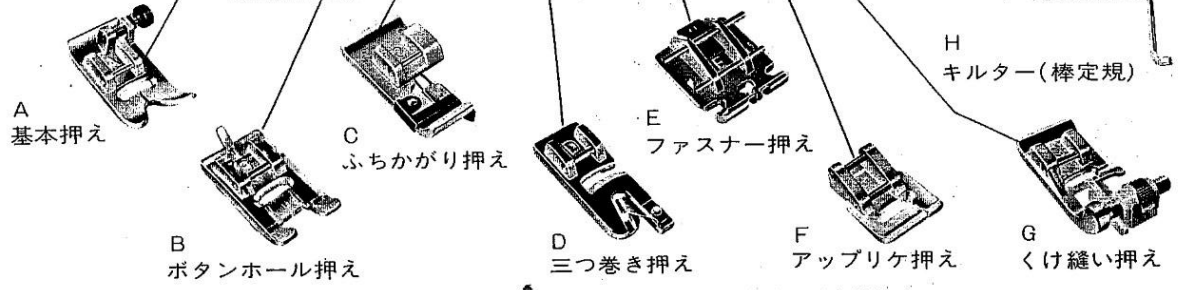
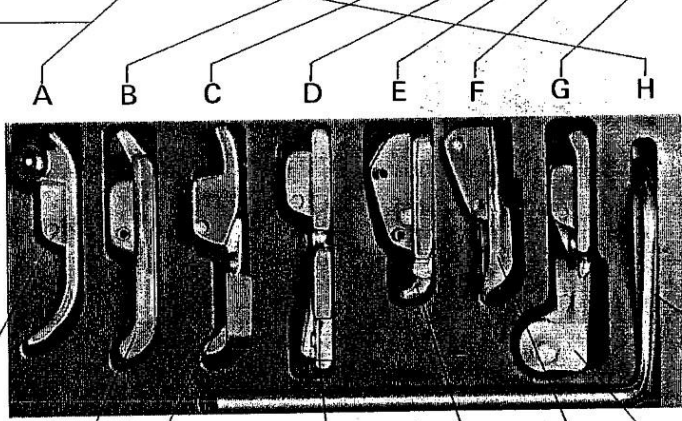


| 縫いの種類 | 直縫 | 三つ巻 | ふちかがり | かぎ針 | ボタン | 穴かがり | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | |
|--|-------|-----|---------|-----|-----|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--|
| | 直縫 | 三つ巻 | ふちかがり | かぎ針 | ボタン | 穴かがり | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | スチッチ | |
| ●弱中強は上糸調子の目安を示す 弱…糸調子ダイヤル目盛 0-4 中… ” ” ” 3-6 強… ” ” ” 5-9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上糸調子 | 1.5-4 | S | 0.5-1.5 | S | S | 1.5-4 | A | H | B | C | C | D | E | F | G | G | | | | |
| 押え | A | A | A | A | A | H | B | C | C | D | E | F | G | G | | | | | | |

使用例…「かがり縫いステッチ」を縫う場合。



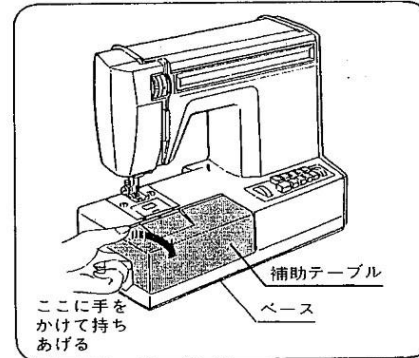
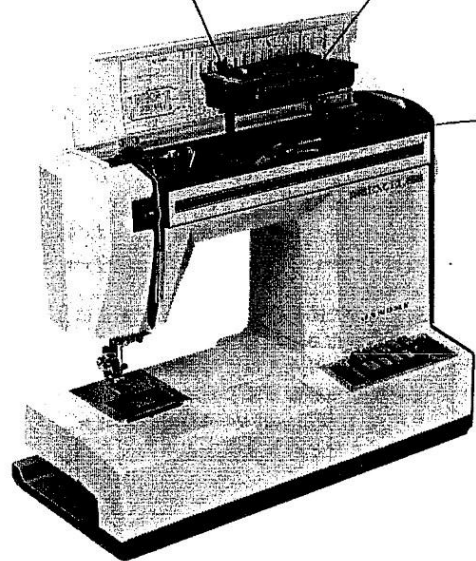
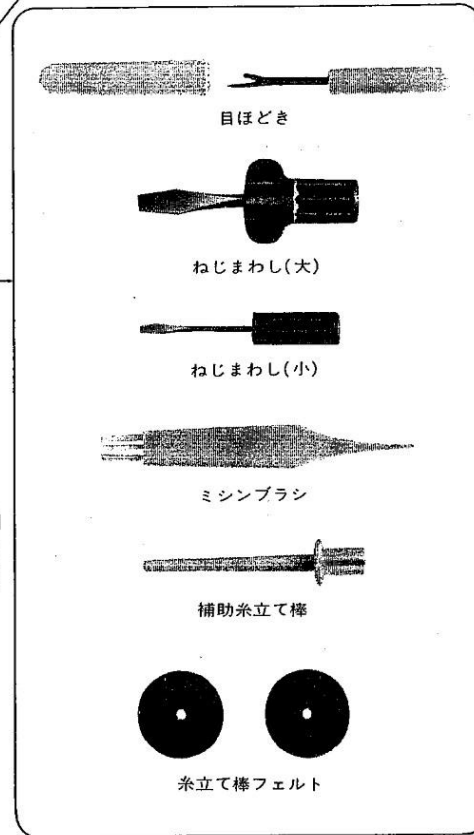
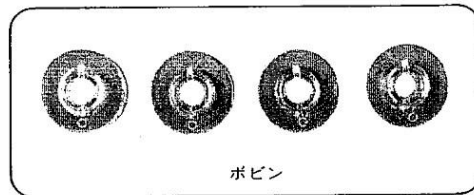
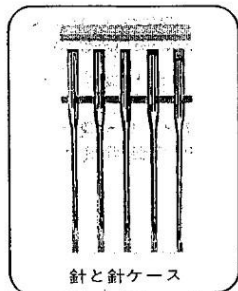
■使用する押えを示す。



※押え類はきめられたところにきちんとしまってください。

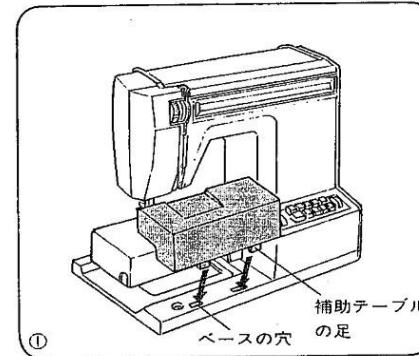
■強中弱は上糸調子の目安を示す。

弱…糸調子ダイヤル目盛 0-4
中… ” ” ” 3-6
強… ” ” ” 5-9



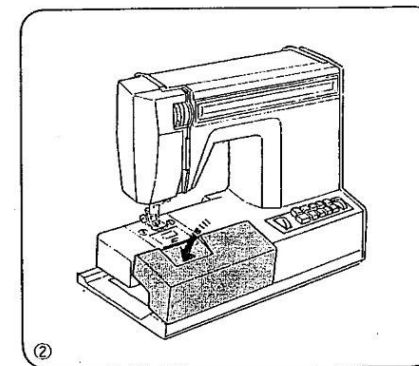
《はずし方》

補助テーブルの下側に手をかけて持ちあげる。



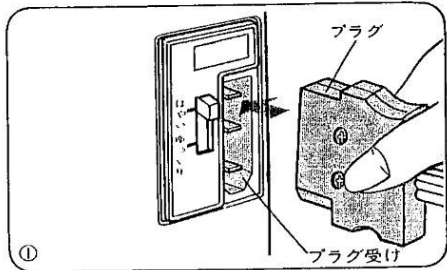
《つけ方》

① ベースの穴に補助テーブルの足を合せてのせる。

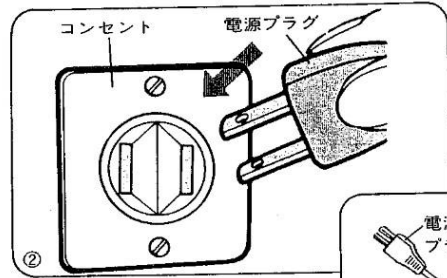


② 上から軽く押す。

●電源のつなぎ方

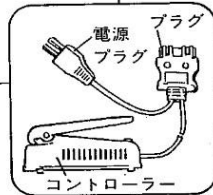


①プラグをミシンのプラグ受けのみに合わせてさしこむ。

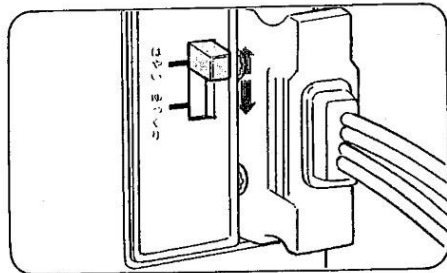


②電源プラグをコンセントにさしこむ。

※電源は、一般家庭用(100V 50/60Hz)電源以外の動力用や発電機は、使わないでください。



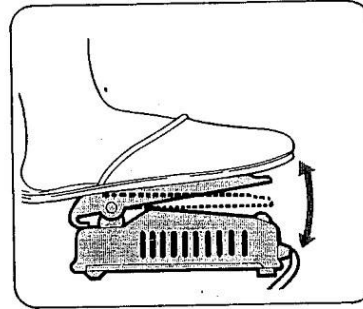
●スライドスイッチの使い方



スイッチの上下で調節する。
はやく縫う……………速く縫うとき
ゆっくり縫う……………遅く縫うとき

※ミシンの運転中は、スイッチの切りかえをしないでください。

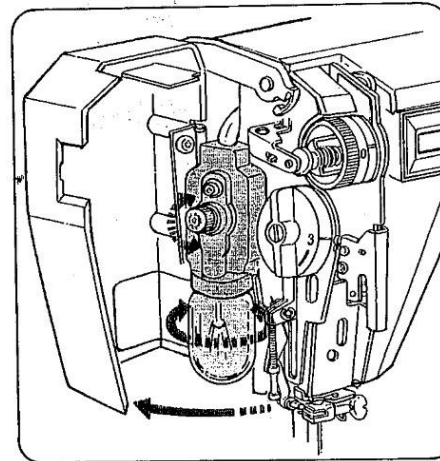
●速さの調節の仕方



コントローラーの踏みこみで調節する。
浅く踏みこむ……………おそい
深く踏みこむ……………はやい

※押えをあげ、糸を掛けないでコントローラーを踏み、速さと踏みこみの関係になれてください。

●点滅の仕方



《点滅の仕方》

面板をひらいて、スイッチつまみをまわす。

《電球のとりかえ方》

はずす時……………左にまわす。
つける時……………右にまわす。

※安全のためにランプはつけたままにしてください。

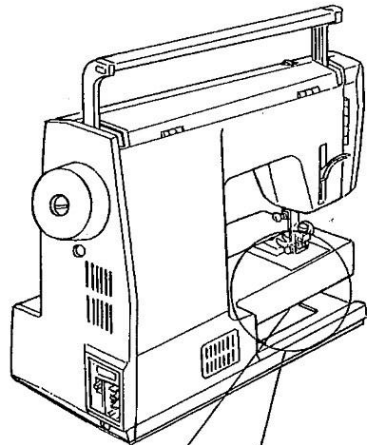
※電球のとりかえは、電源プラグを抜いてから行なってください。

※電球(照明用 100V-12W)は、ジャノメミシン直営支店でお求めください。

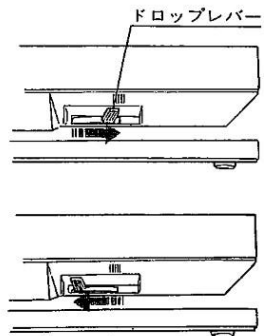
○ドロップレバーの使い方

ししゅう又は別売のアルファベットステッチ、オーバルステッチ、フラワーステッチなどを使用する場合はドロップレバーを操作して送り歯をさげます。

※通常は送り歯をあげた位置にセットしておきます。



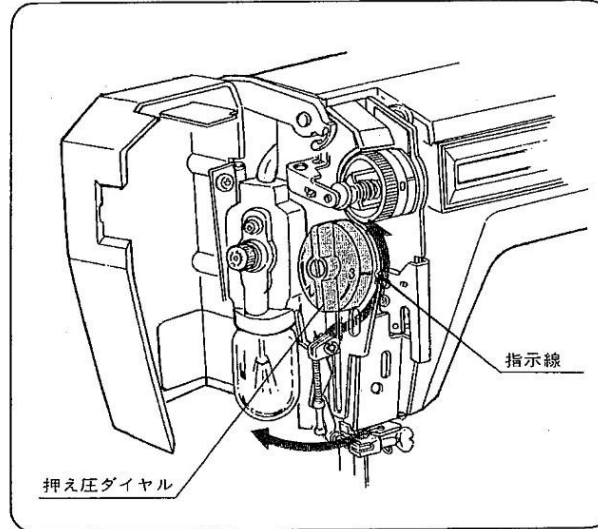
ドロップレバー



■送り歯をあげた位置

■送り歯をさげた位置

○押え圧ダイヤルの使い方



通常はダイヤルの数字「3」で縫い、下記のような場合に調節します。

《押え圧をかえる場合》

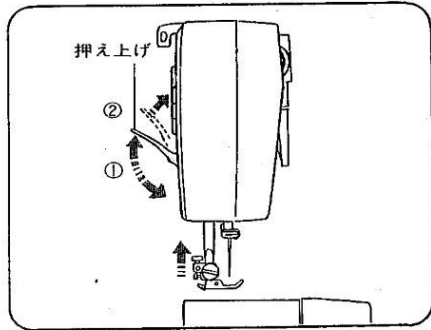
- アップリケ、カットワーク、ترونワークなどのとき、ダイヤル数字「2」
- うすい布や化繊地、伸縮性のある布などで、縫い縮みしたり、そり返ってうまく縫えないとき、ダイヤル数字「1」

《押え圧のかえ方》

ダイヤルをまわし、目盛りと指示線を合わせる。

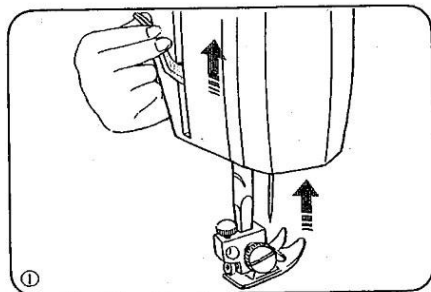
※押え圧ダイヤルを動かしたときは、あとで「3」の位置に戻してください。

● 押えのあげ方、さげ方



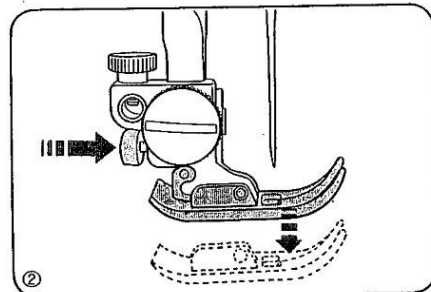
- ① 押え上げをあげさげして、押えをあげたり、さげたりする。
- ② 押え上げをあげた位置より、さらに高くあげると、押えはさらにあがる。

● 押えのはずし方、つけ方



《押えのはずし方》

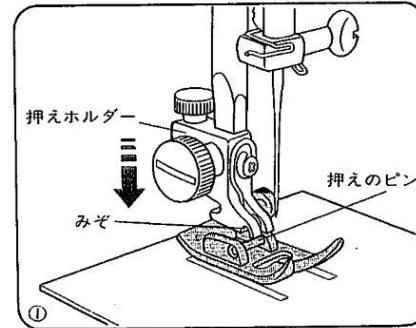
- ① 針と押え上げをあげる。



- ② 押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずす。

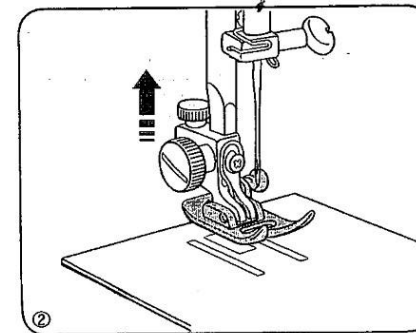
※押えを無理に引いてはささないでください。

《押えのつけ方》



- ① 押えのピンを押えホルダーのみぞの真下において、静かに押え上げをおろす。

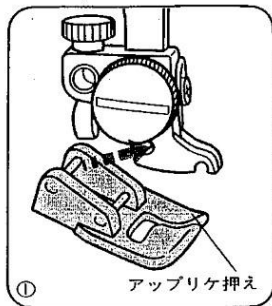
※押えをつけるときは、押え圧ダイヤルを「3」に合わせてください。(7ページ参照)



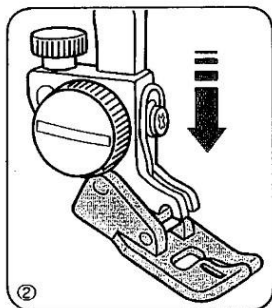
- ② ピンがみぞにはいったら、押え上げをあげる。

○押えホルダーのはずし方、つけ方

《アップリケ押え、ファスナー押えのつけ方》



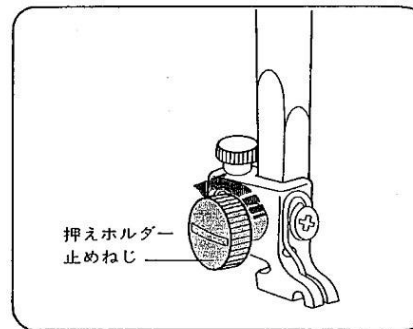
① 押えの後方のピンをホルダーの後ろのみぞに入れる。



② 押えの前側のピンを押えホルダーのみぞの真下において静かに押え上げをおろす。

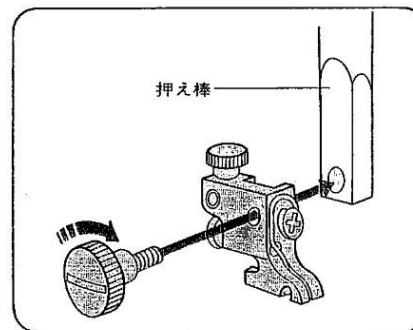
※ファスナー押えも同じ方法でつけます。

別売のアルファベットステッチ、オーバルステッチ、フラワーステッチなどを使用する場合と、かまと送り歯の手入れをする場合を除いては、押えホルダーをはずす必要はありません。



《押えホルダーのはずし方》

押えホルダー止めねじを、ねじまわして左にまわす。



《押えホルダーのつけ方》

押えホルダーの穴と押え棒のねじ穴を合わせ、押えホルダー止めねじをさしこみ、ねじまわして右にまわしてしっかりつける。

《布に適した糸と針の目安》

| 布 | | 糸 | 針 |
|------|-------------------------------|------------------------------------|-------------------|
| うすい布 | クレープ、デシン、ボイル、ローン、オーガジー、ジョーゼット | 細手絹糸 細手綿糸 (細手化繊糸) | 9番 または 11番 |
| 普通の布 | 普通もめん、ピケ、サージ、その他一般服地 | 絹糸50番 綿糸50番～80番 (化繊糸50番～60番) | 11番 または 14番 |
| 厚い布 | デニム、ツイード、ギャバジン、コート地 | 絹糸50番 綿糸40番～50番 (化繊糸40番～50番) | 14番 または 16番 |

※一般にうすい布には、ほそい糸とほそい針を、厚い布には、太い糸と太い針を使用します。

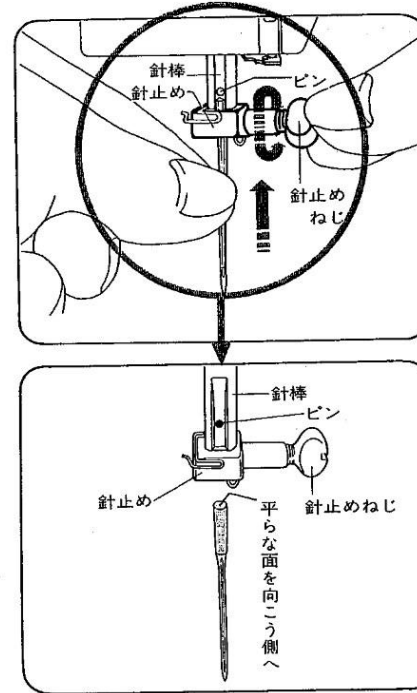
この表を目安に糸と針を選び、試し縫いをして確かめてください。

※原則として上糸と下糸は、同じものを使用してください。

※伸縮性のある布(ジャージー、トリコット)や目のとびやすい布などは、ブルー針を使用すると目とびを防ぐのに効果があります。

※ごくうすい布は、下に紙をしいて縫ってください。

※細くなめらかな糸を使用する場合は、スライドスイッチを「ゆっくり」にしてください。



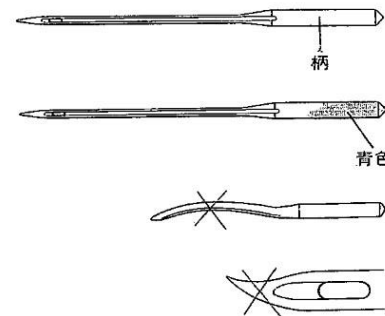
- ① 針止めねじを手前にまわしてゆるめ、針をはずす。
- ② 針の柄の平らな面を向こう側に向けて、針止めにさしこむ。
- ③ 奥いっぱいピンにあたるまで入れ、針止めねじをかたくしめる。

《針の選び方》

■ 針の太さを示す番号は柄に表示してあり、数字が大きくなれば太くなる。

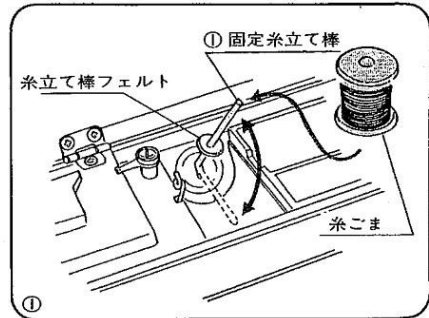
■ ブルー針は柄の部分青色をしている。

※ 全体がまがってしまったものや、針先がつぶれたりまがったりしたものは、使用しないでください。

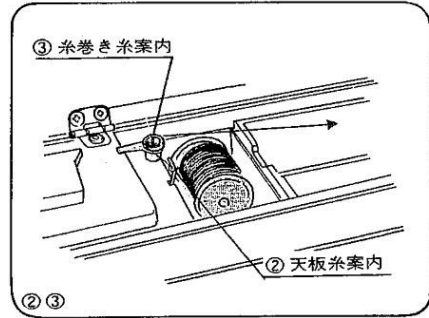


天板を開き、糸立て棒に糸ごまをさし込んで糸を巻きますが、固定糸立て棒と補助糸立て棒のどちらでも使用できます。

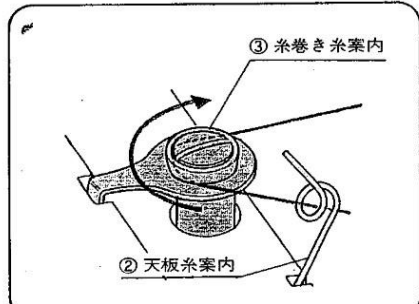
★固定糸立て棒



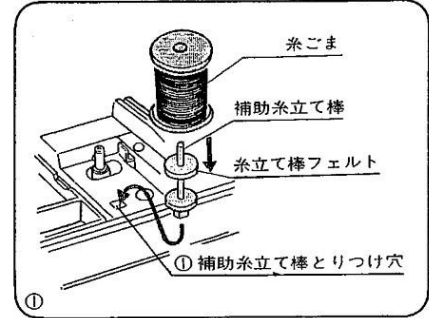
①糸立て棒を軽くおこし、糸立て棒フェルトと糸ごまを入れる。



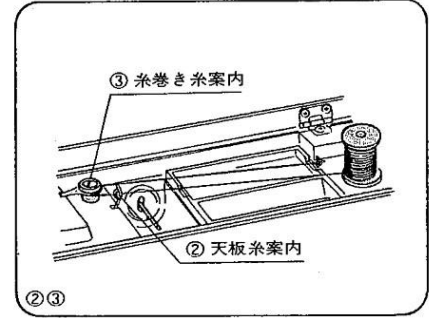
②天板糸案内に糸を掛ける。
③糸巻き糸案内に糸を掛ける。



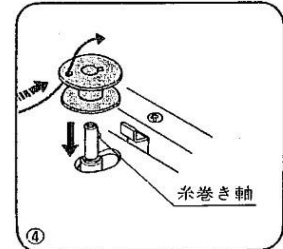
★補助糸立て棒 (上糸を針に通したまま下糸を巻く場合)



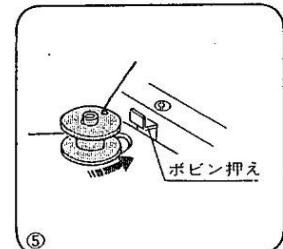
①補助糸立て棒をとりつけ穴にさし込んで、糸立て棒フェルトと糸ごまを入れる。



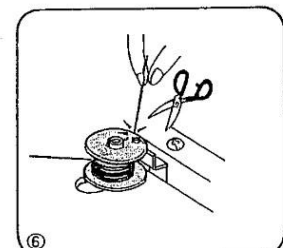
②天板糸案内に糸を掛ける。
③糸巻き糸案内に糸を掛ける。



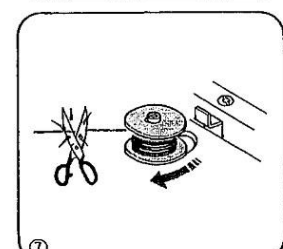
④糸の先をボビンのつばの穴に内側から通す。



⑤ボビンを糸巻き軸にさしこんで、ボビン押えの方に押す。



⑥糸の端を指でつまんだままコントローラーを踏む。ボビンに糸が3重くらい巻きついたら、穴のきわで糸を切る。

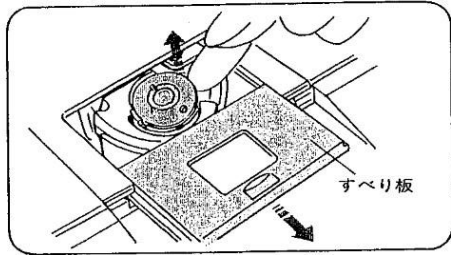


⑦巻きおわったら、ボビンは自動的に止まる。ボビンを戻して、糸を切る。

※糸巻き軸の移動は必ず、ミシンを止めてから行ってください。

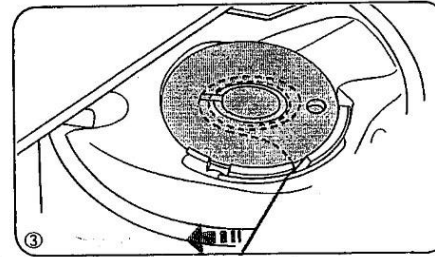
※②～③は、糸ごまを押えて糸を掛けてください。

●ボビンケースの出し方、入れ方

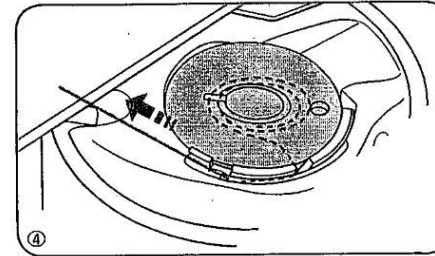


《ボビンの出し方》

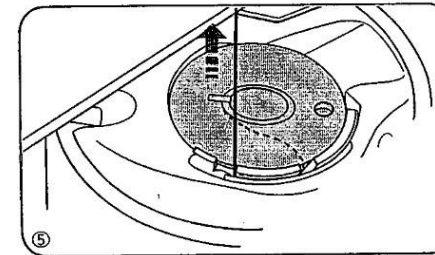
すべり板を静かに止まる場所まであげ、ボビンを取り出す。



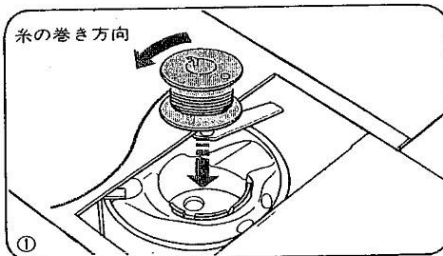
③糸を左へ引くと、みぞの外側とばねの間に糸が入る。



④ボビンがまわるまで、糸を向こう側に引くと、左側のみぞのところへ出る。

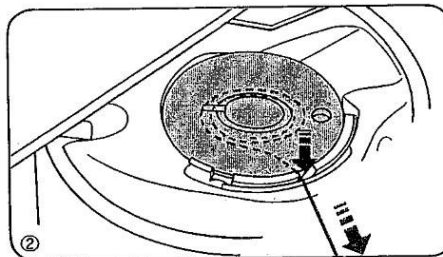


⑤糸を左側のみぞに掛けるように向こう側に出す。

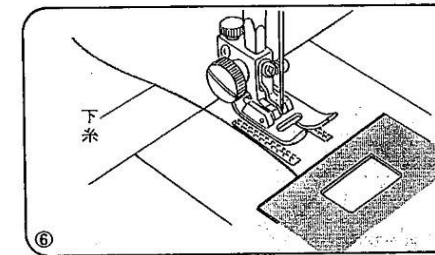


《ボビンの入れ方》

①糸の端を矢印の方向にしてボビンを入れる。

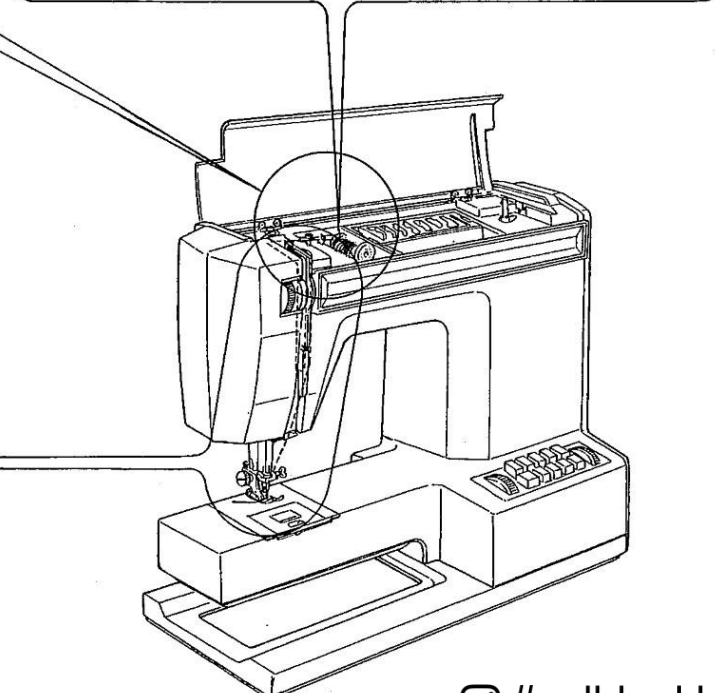
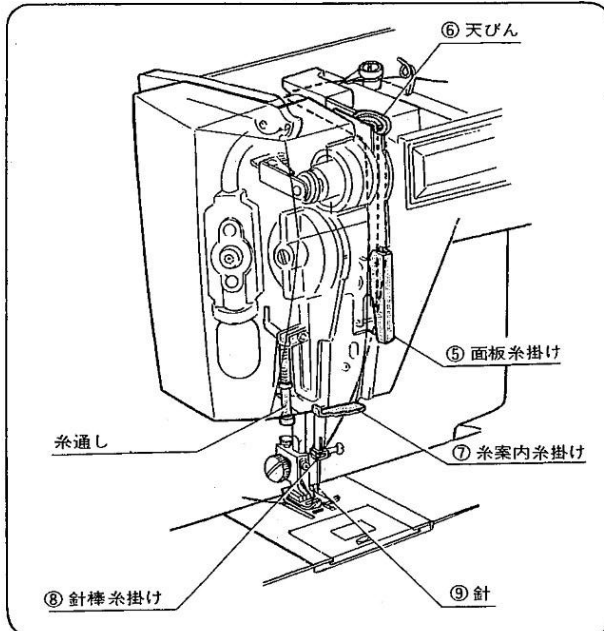
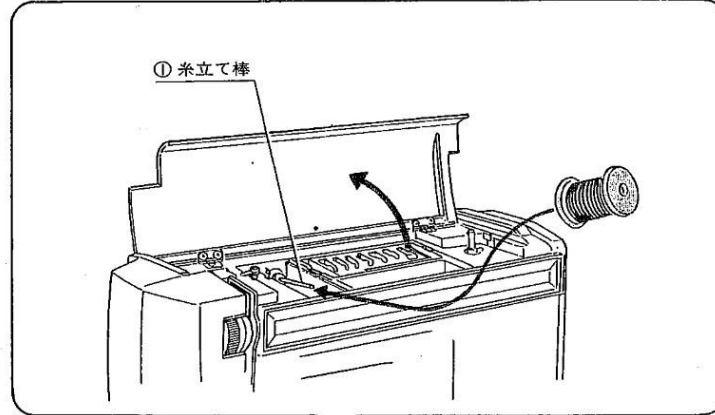
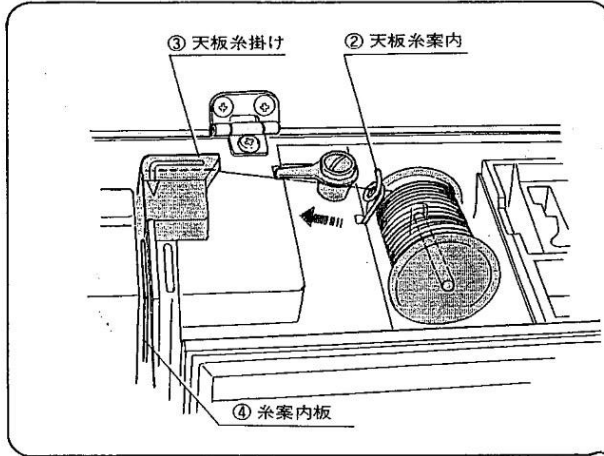


②糸の端を左指で引きながら、糸を右指先で案内し、内がまの手前のみぞに掛ける。



⑥糸を15cmほど引き出し、すべり板をしめる。

○上糸の掛け方

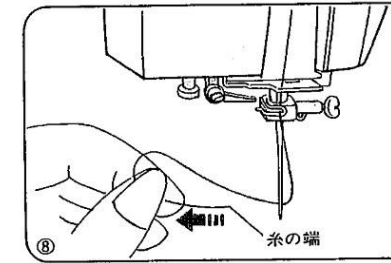
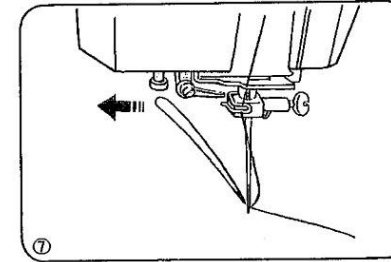
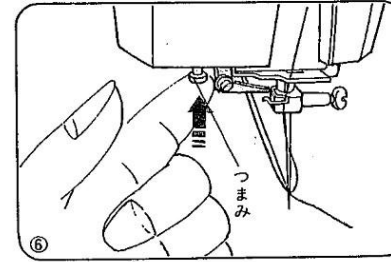
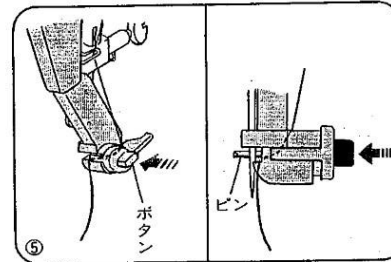
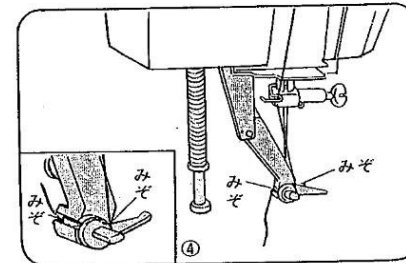
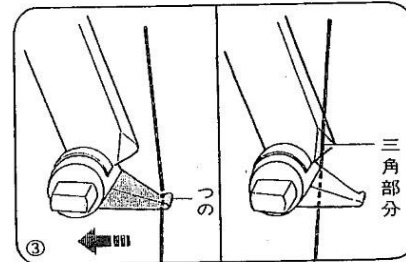
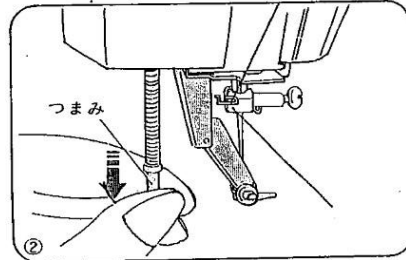
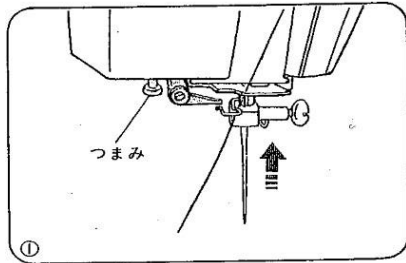


押えをあげ、天びんが最上部にあるのを確かめて、糸ごまを押えながら正しく糸を掛けてください。

- ①天板をひらき、糸立て棒を軽くおこして糸ごまを入れ、糸を引き出す。
- ②天板糸案内に掛ける。
- ③天板糸掛けに掛ける。
- ④糸案内板のところで下におろす。
※糸は糸案内板の左右どちら側を通してかまいません。
- ⑤面板糸掛けに左から下にまわして掛け、上に引きあげる。
- ⑥天びんへは、左から後へまわして右へ出し、手前に引く。
- ⑦糸案内糸掛けに、右から掛ける。
- ⑧針棒糸掛けに、左から掛ける。
- ⑨糸通しを使って、針に糸を通す。
(通し方は14ページ参照)

※糸通しを使わないときは、針の手前から向こう側に、手で糸を通してください。

※糸ごまの下に、付属品の糸立て棒フェルトをしいてください。



⑤ ボタンを静かに押して、針穴に糸が「輪」になって通ったら、ゆっくりとはなす。

※ピンが針にあたって、うまく針穴に入っていないときには、無理にボタンを押さないでください。

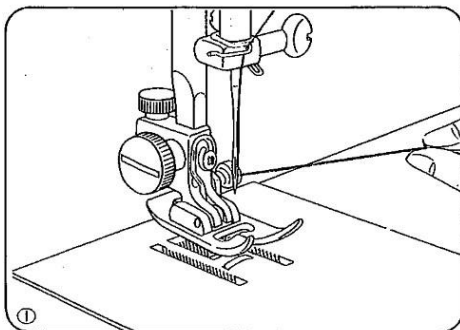
⑥ つまみを静かに押しあげ、輪を引きあげる。

⑦ 糸の輪を左横に引いて、はずす。

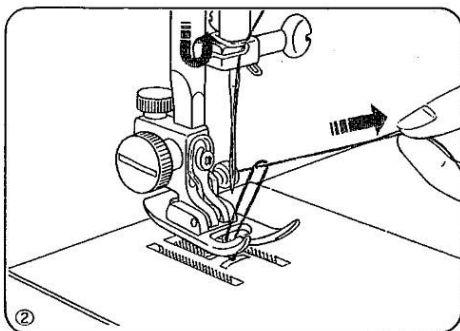
⑧ 糸の端を針穴から引き出す。

※針は、11番、14番、16番と付属品のブルー針、糸は、50番、60番、80番、100番をお使いください。

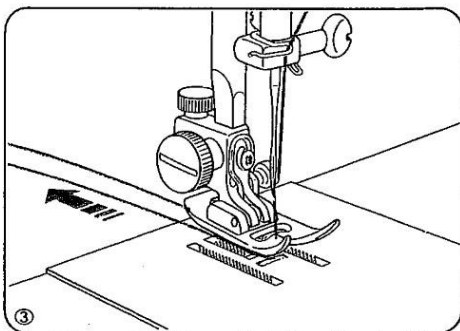
○ 下糸の引きあげ方



①左手で上糸の端をつまんで、
ややゆるめて持つ。



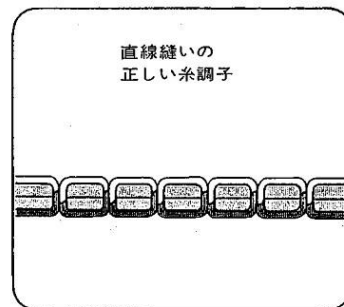
②右手ではずみ車を手前にまわし、針をいったんさげて、あげる。
天びんが最上部にきたら、上糸を軽く引くと、下糸が「輪」
になって出てくる。



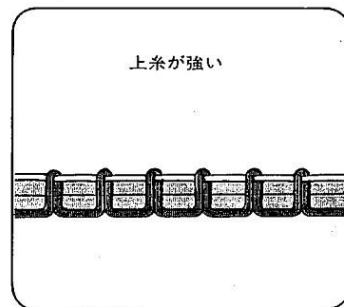
③出てきた下糸と上糸を、押え
の下から向こう側へ、15cmほ
ど引き出してそろえておく。

○ 糸調子の出し方

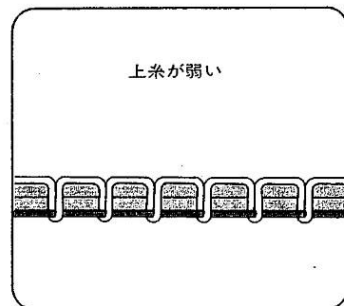
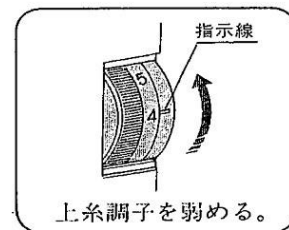
糸調子は、糸調子ダイヤルで、上糸調子を強めたり、弱めたりして調節し
ます。



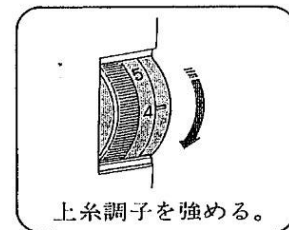
上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわる。



布の上に下糸
が出る。

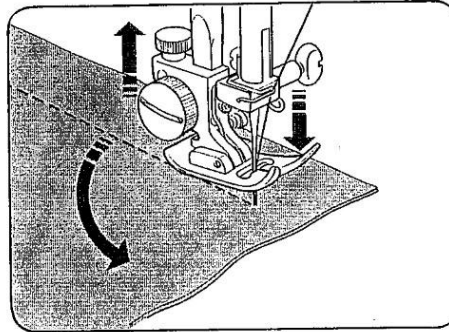
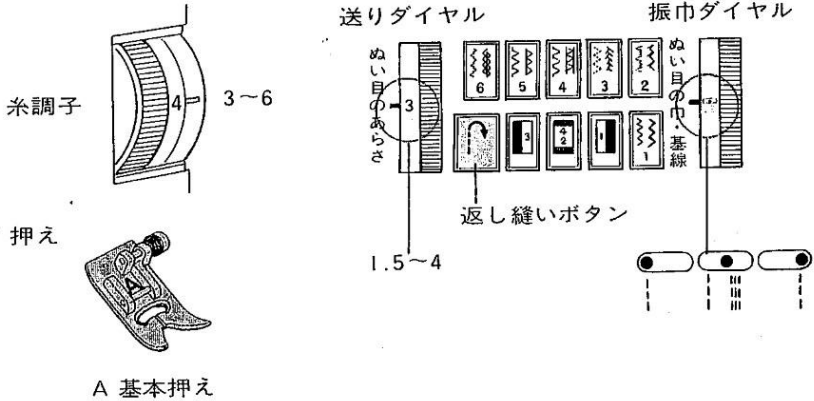


布の下に上糸
が出る。



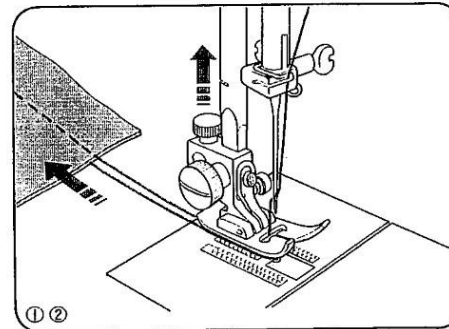
*上糸調子は、各縫いのセットのし方に、その目安を示してあります。

《セットのし方》



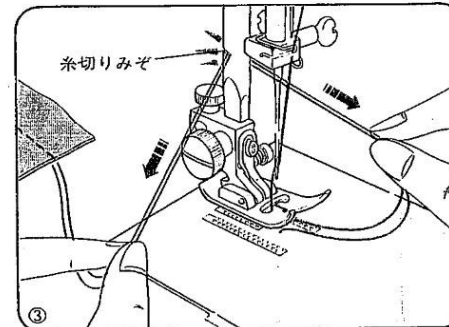
《縫い方向をかえるとき》

- ① 針を布にさしたままミシンを止め、押えをあげる。
- ② 針を軸にして布をまわす。
- ③ 押えをおろして縫う。

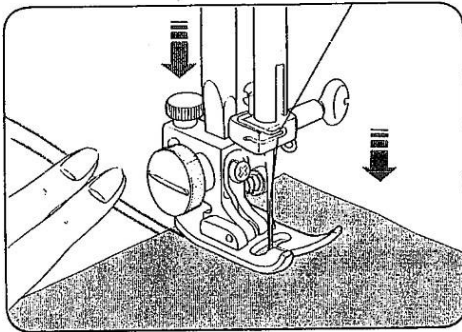


《縫いおわり》

- ① 返し縫いボタンを押して、数針縫う。
- ② 押えをあげて、布を向こう側に引き出す。



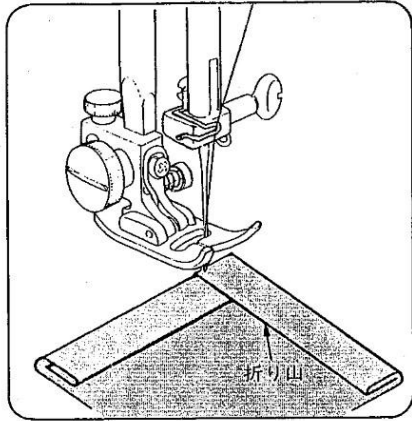
- ③ 押え棒の糸切りみぞで、糸を切る。



《縫いはじめ》

- ① 上糸・下糸を押えの向こう側へ、15cmほど引き出し、糸のたるみをなくす。
- ② 上糸・下糸を左手で押さえて、はずみ車を手前にまわし、縫いはじめの位置に針をさす。
- ③ 押えをおろし、コントローラを軽く踏み、ゆっくり縫いはじめる。

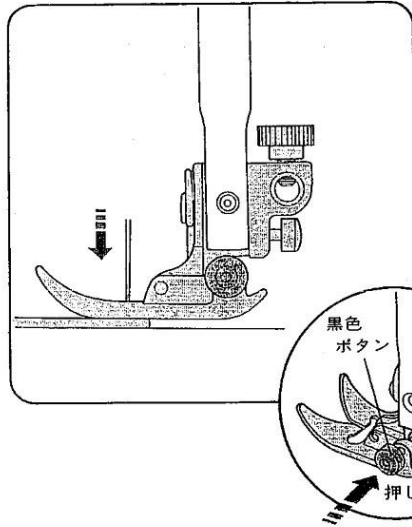
※縫いはじめの部分は、返し縫いボタンを押して、数針縫ってください。



《かどの縫いはじめ》

折り山に合わせて、基線（針位置）が、かえられる。

※基線（針位置）のかえ方は、3ページにあります。

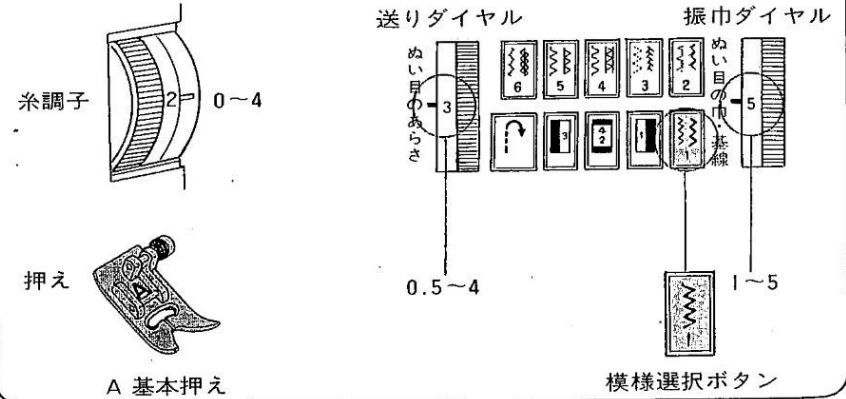


《厚手の布の縫いはじめ》

- ①縫いはじめの位置に針をさし、基本押えの黒色ボタンを、右手で押しあげるようにして、押しこむ。
- ②ボタンを押したまま、左手で押えをおろす。
- ③ボタンから手をはなし、縫いはじめる。

※縫い目のあらかさは、あらめにしてください。

《セットのし方》



※模様選択ボタンは、振巾ダイヤルをセットしてから押してください。

※ボタンを押すときは、針を布からあげてください。

裁ち目かがりは、布端のほつれ止めとして、特に肩・袖下・脇・見返し・股上・股下などのほつれ止めに使います。
 かがり方は、ジグザグ縫い裁ち目かがり・かがり縫いステッチ・トリコット縫い裁ち目かがりがあります。

★ジグザグ縫い裁ち目かがり

裁ち目のほつれ止めとして広く利用します。

《セットのし方》

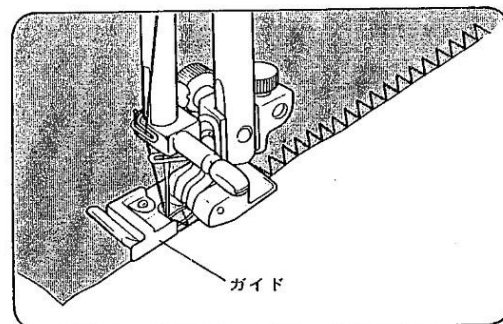
糸調子 2 0~4

送りダイヤル 振巾ダイヤル

1.5~3 5

押え C ふちかがり押え

模様選択ボタン



《縫い方》

布端をふちかがり押えのガイドにあてて縫う。

★かがり縫いステッチ

かがり縫いと地縫いが、同時にできるので、ほつれやすい布や、縫いしろを割らなくていいものの縫い合わせに、適しています。

《セットのし方》

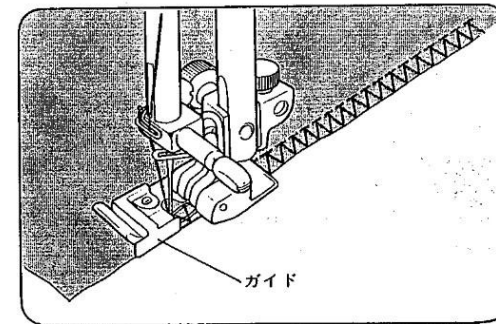
糸調子 2 0~4

送りダイヤル 振巾ダイヤル

S 5

押え C ふちかがり押え

模様選択ボタン

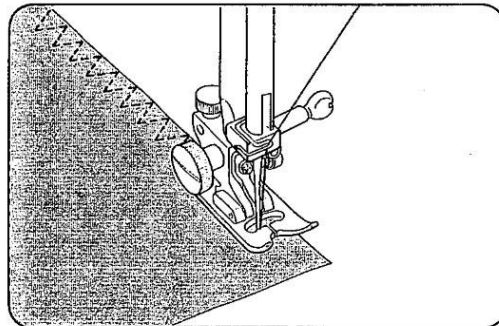
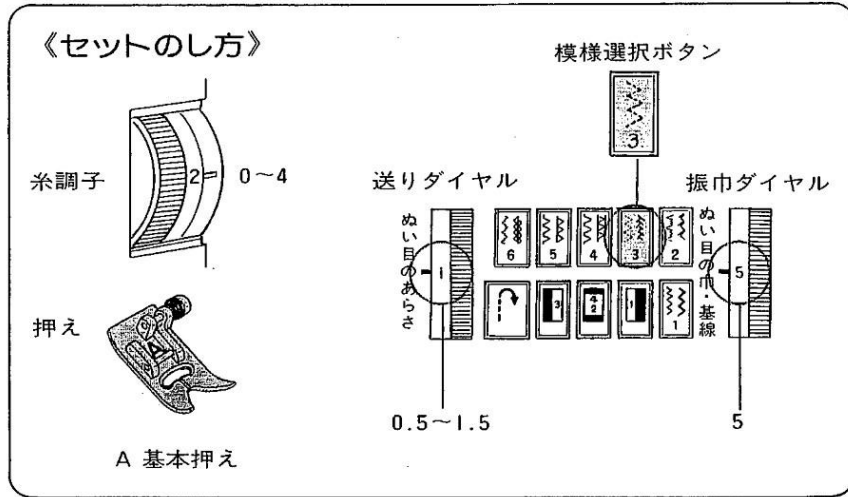


《縫い方》

布端をふちかがり押えのガイドにあてて縫う。

★トリコット縫い裁ち目かがり

ほつれやすい布や、伸縮性のある布のほつれ止め、布端の返り防止に利用します。



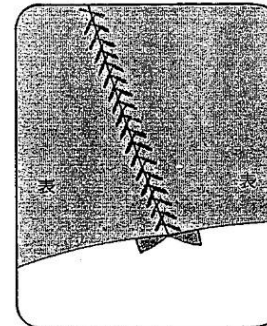
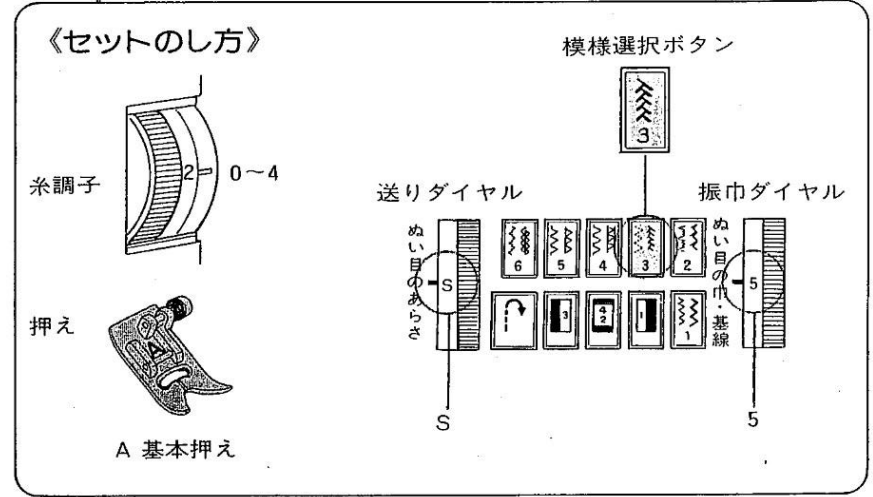
《縫い方》

布端を、押えの右端より、やや内側にし、織り糸を1~2本残すように縫う。

※伸縮性のある布は、押え圧ダイヤルの数字「1」、または「2」にし、ブルー針を使用してください。

★フェザーステッチ

伸縮性のある、しっかりした縫い合わせができます。



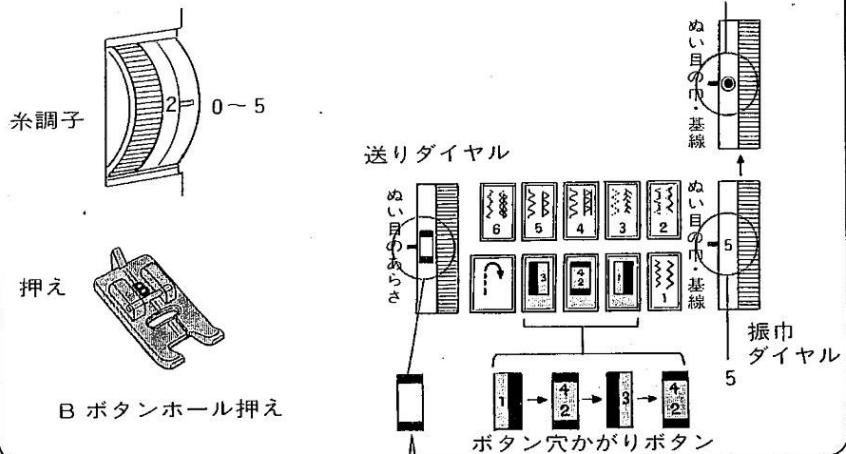
《準備》

布を中表に合わせて、地縫いをし、縫いしろを割る。

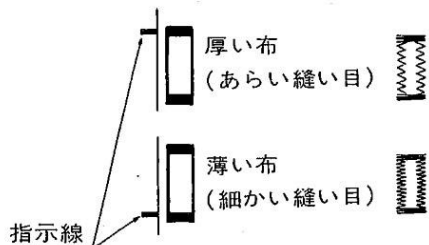
《縫い方》

布の表から地縫い線を中心にして縫う。

《セットのし方》

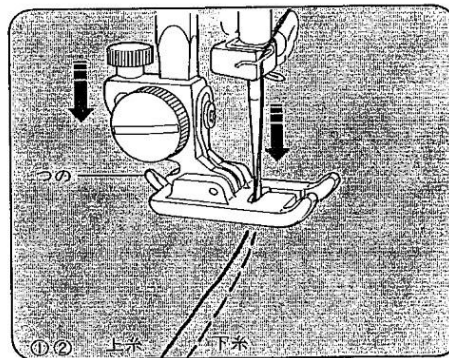


★印は
ボタン穴かがりの縫い目あらさを調節する目安
です。



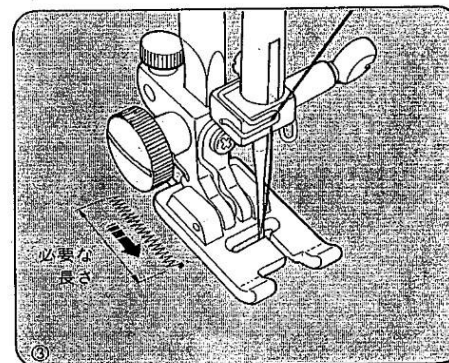
- ※縫うものと同じ布で、試し縫いをして確かめてから、縫ってください。
- ※伸縮性のある厚手の布や、やわらかい厚手の布(ジャージー・ツイードなど)は、押え圧ダイヤルを「2」にすれば、きれいに仕上がります。
- ※伸縮性のある布には、布の裏に、伸びにくい芯地をはってください。

《縫い方》

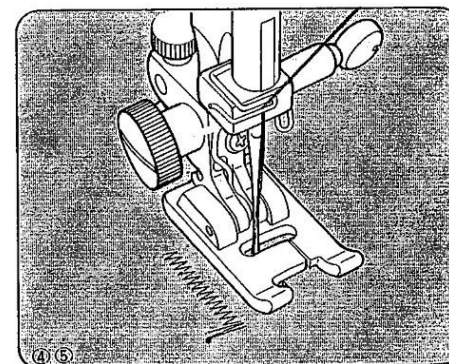


①模様選択ボタン を押す。

②上糸と下糸を左横へ15cmほど引き出して、縫いはじめの位置に針をさし、押えをおろす。



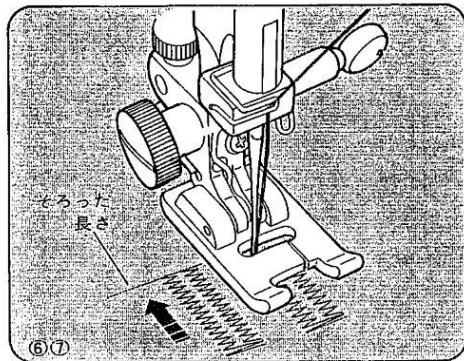
③必要な長さまで縫ったらミシンを止め、針をあげる。



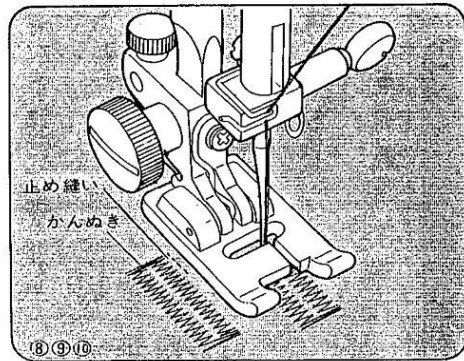
④模様選択ボタン を押す。

⑤かんぬきを5針ぐらい縫い、針をあげる。

○ボタニボタン穴かがり

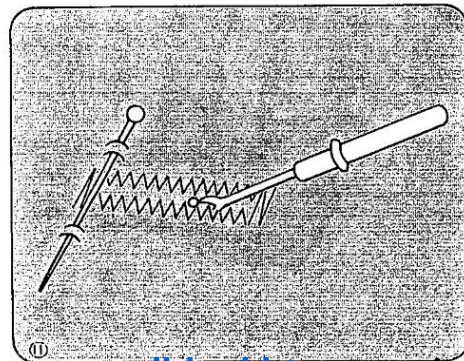


- ⑥模様選択ボタン **1** を押す。
- ⑦右側と同じ長さまで縫い、針をあげる。



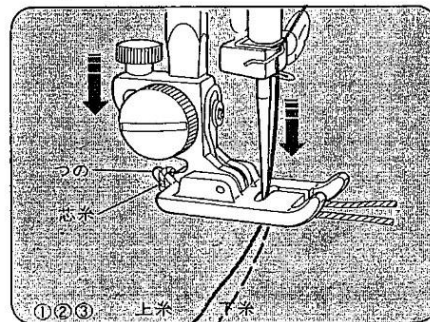
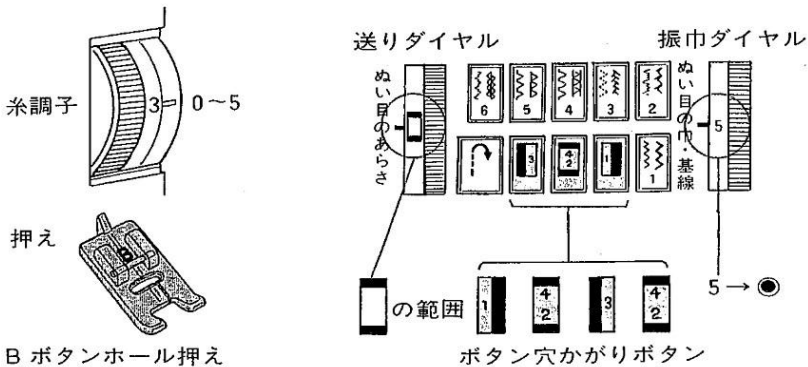
- ⑧模様選択ボタン **2** を押す。
- ⑨かんぬきを5針ぐらい縫い、針をあげる。
- ⑩振巾ダイヤルを「5」から「●」にかえ、その位置でダイヤルを手で押さえたまま、数針止め縫いをする。

※振巾ダイヤルを「●」から「5」に戻します。



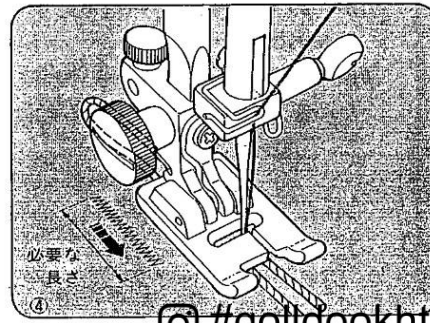
- ⑪かんぬきの内側にまち針を縫いさし、目ほどきで、かがった糸を切らないように、中央の布を切りひらく。

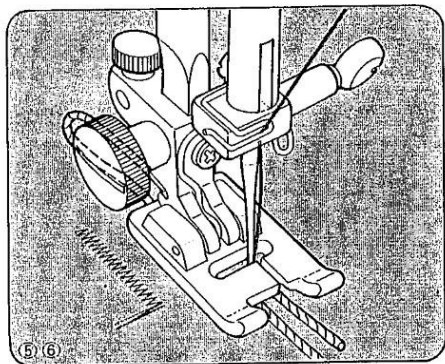
《セットのし方》



《縫い方》

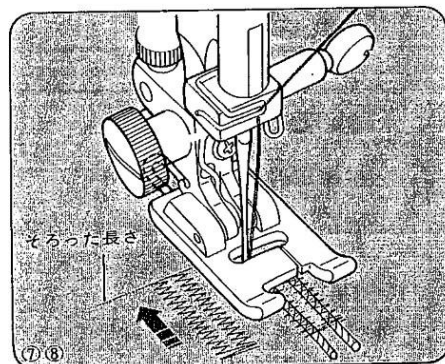
- ①模様選択ボタン **1** を押す。
- ②芯糸の輪を押えの後ろ側にある「つ」に掛け、押えの下から、手前に引き出す。
- ③縫いはじめの位置に針をさし、押えをおろす。
- ④2本の芯糸を、つの中の巾に平行にして、軽く布面に押しつけながら、必要な長さだけ縫い、ミシンを止め、針をあげる。





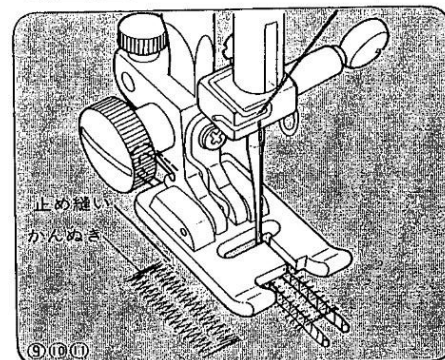
⑤模様選択ボタン **4** を押す。

⑥押えの後ろ側に出ている芯糸の「輪」がつのに掛からないように、布面に押しつけてから、コントロールローラーを踏み、かんぬきを5針ぐらい縫ったら針をあげる。



⑦ボタン **1** を押す。

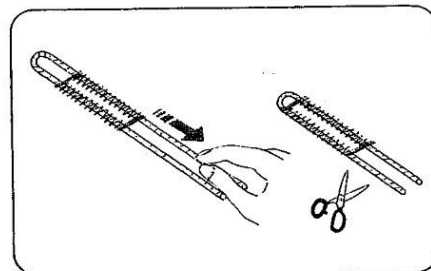
⑧右側と同じ長さまで縫ったら、針をあげる。



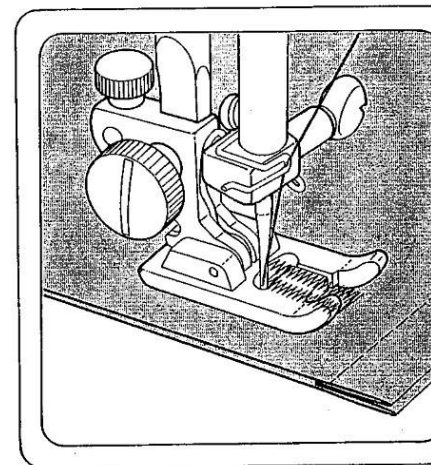
⑨模様選択ボタン **4** を押す。

⑩かんぬきを5針ぐらい縫ったら、針をあげる。

⑪振巾ダイヤルを「5」から「●」にかえて、数針止め縫いをする。

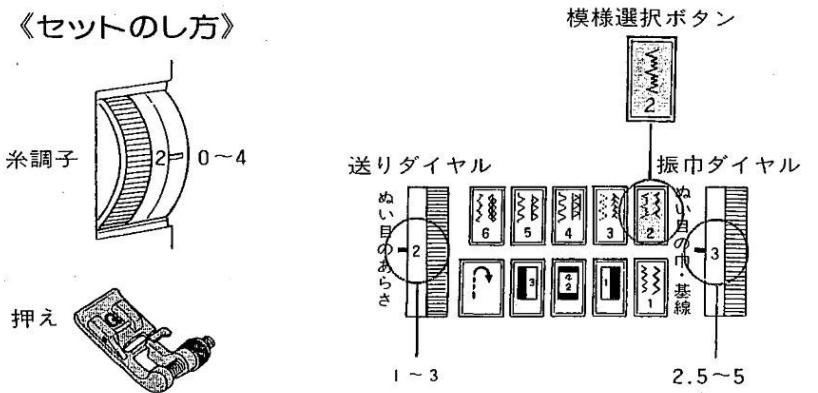


⑫右側の芯糸を引いて、たるみをなくし、余分な芯糸を切る。



ボタン穴の位置が、縫いしろの、重なっている部分のきわになるときは、段部に交わる向きにし、段部を手前にして縫う。

《セットの仕方》



糸調子 2 0~4

送りダイヤル 2 1~3

振巾ダイヤル 3 2.5~5

模様選択ボタン

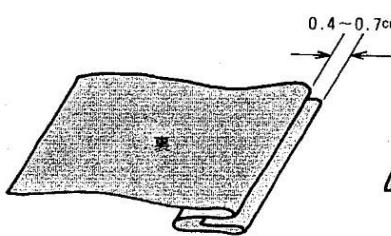
G ぐけ縫い押え

○目盛を大きくすると (目盛3~5)

○目盛を小さくすると (目盛2.5)

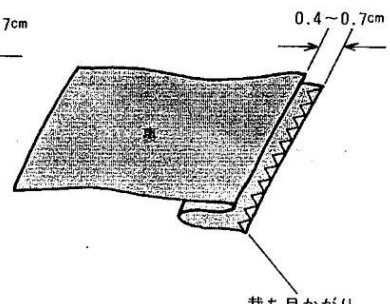
《布の折り方》

うすい布、普通布の場合



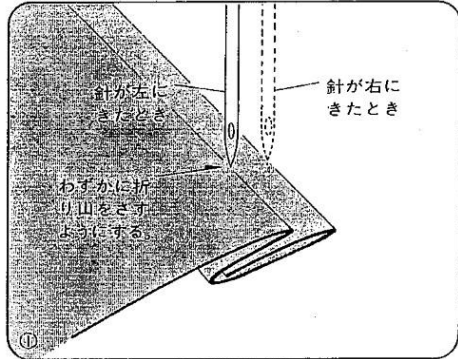
0.4~0.7cm

かたい布、厚い布の場合

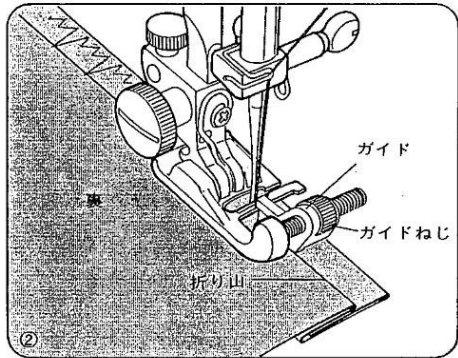


0.4~0.7cm

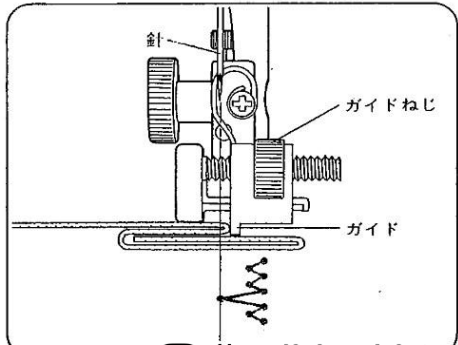
裁ち目がかり



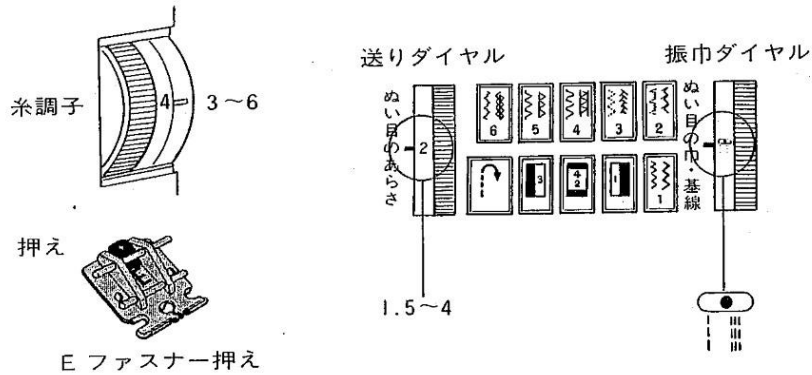
①はずみ車を手前にまわして、針が最も左にきたときに、針がわずかに折り山をさすように布を置いて、押えをおろす。



②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針がはずれないように縫う。



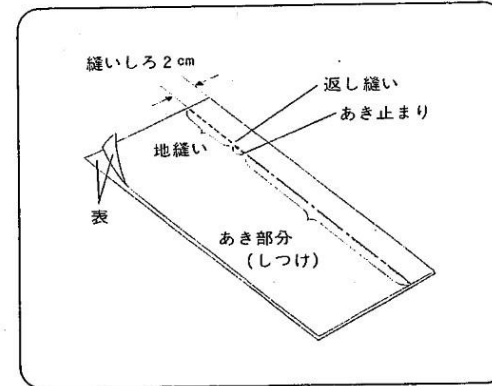
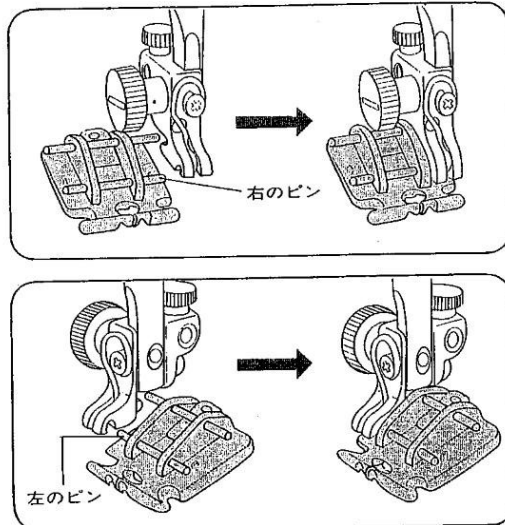
《セットのし方》



《押えのつけ方》

むしの左側を縫うときは、右のピンにとりつける。

むしの右側を縫うときは、左のピンにとりつける。

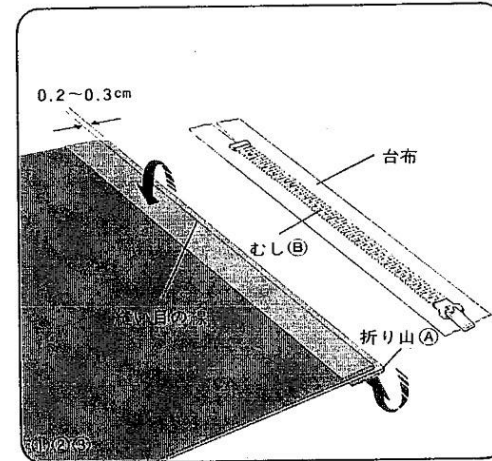


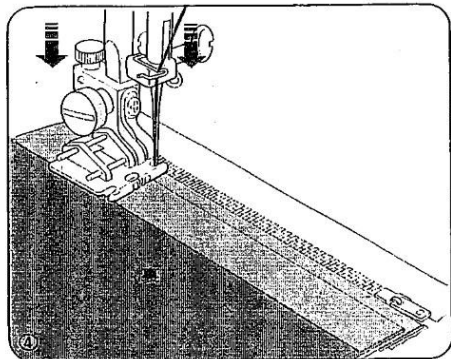
《準備》

- ① 布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをする。
- ② あき部分は、しつけをする。

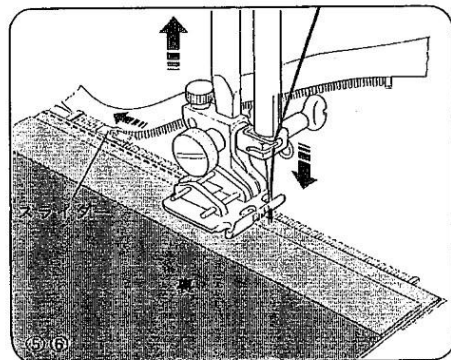
《縫い方》

- ① 上の布の縫いしろを、縫い目の線で折り返す。
- ② 下の布の縫いしろは、縫い目の線から0.2~0.3cm出して、下に折り返す。
- ③ ファスナーのむし②を、折り山①にそわせて、布をファスナーの台布にのせる。



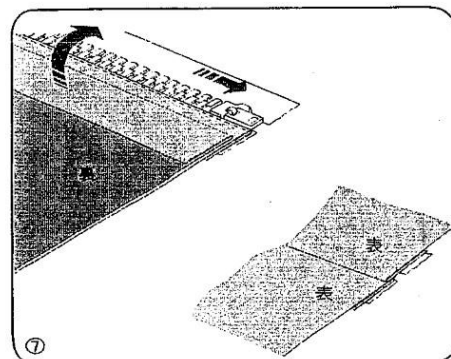


④ 押えを、右のピンにとりつけ、縫いはじめの位置に針をさし、押えをおろして縫う。

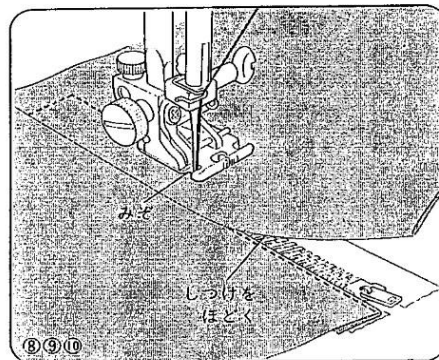


⑤ 押えが、スライダーにあたる手前で、ミシンを止める。

⑥ はずみ車を手でまわして、針を布にさしたまま、押えをあげ、スライダーを押えの向こう側にずらし、押えをさげて、残りを縫う。



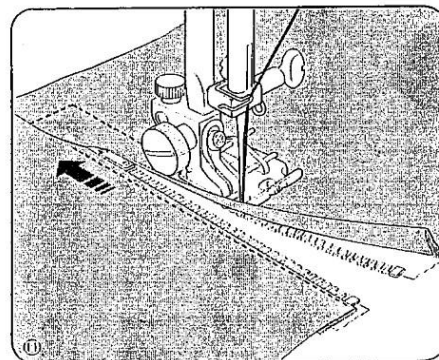
⑦ スライダーをもとに戻し、布をひらいて、表にする。



⑧ 押えを左のピンにつけかえ、ファスナーのむしを、布の上から押えの裏のみぞにあてて縫う。

⑨ 押えがスライダーにあたる手前で、ミシンを止める。

⑩ はずみ車を手でまわして、針を布にさし、押えをあげ、しつけをほどく。



⑪ スライダーを押えの向こう側にずらし、押えをおろして、残りを縫う。

※縫い方の説明は、スカート左脇あきファスナーつけの例です。

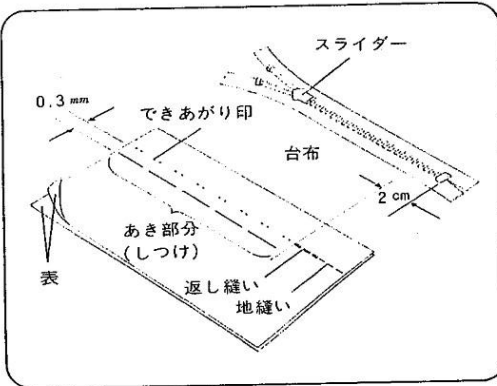
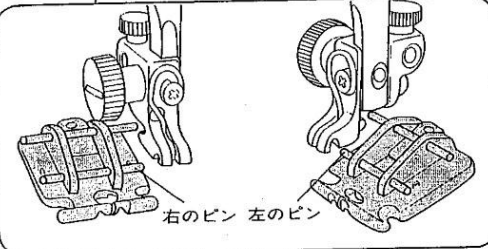
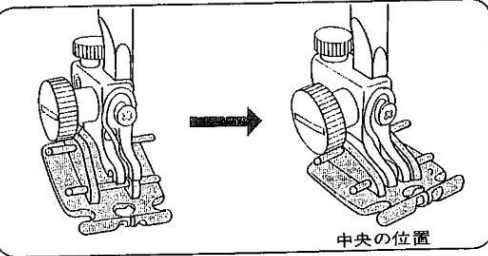
《押えのつけ方》

むしの左側と右側を縫うときは、中央の位置にとりつける。

台所の左側を、縫いしろに縫いつけるときは、右のピンに、右側のときは、左のピンにとりつける。

《準備》

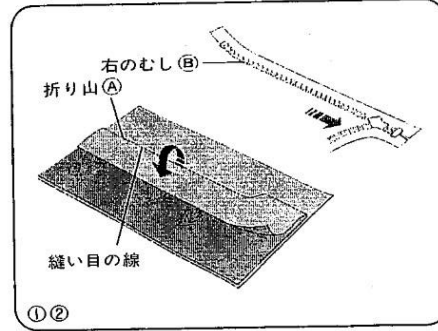
- ①布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをする。
- ②あき部分は、地縫い線(できあがり印)から、0.3cm内側に「しつけ」をする。



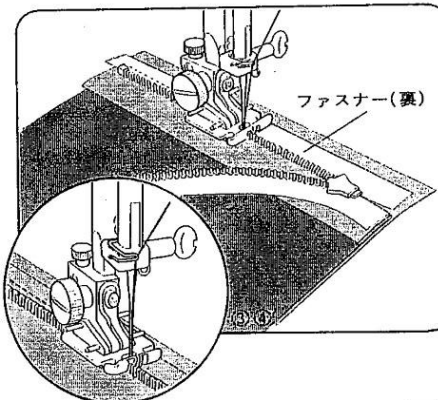
※ファスナーは、あき寸法より2cm長いものを用意します。

《縫い方》

- ①上の布の縫いしろを、縫い目の線で、身頃側へ折り返す。
- ②ファスナーをひらいて、右のむし(B)を、折り山(A)にあてておく。



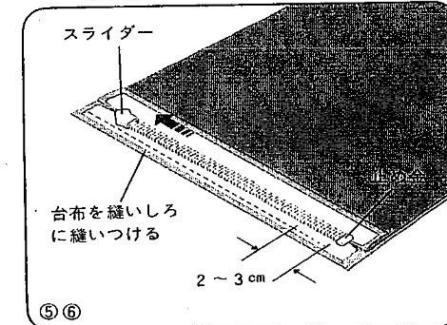
- ③押えを、中央の位置にとりつけ、右のむしを立てて、押えの裏の左側のみぞに入れ、針がむしのきわを縫うように、押えの位置をやや右によせ、押えをおろす。

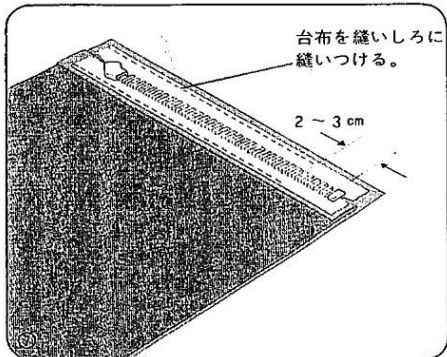


- ④むしをおこしながら、あき止まりまで縫う。

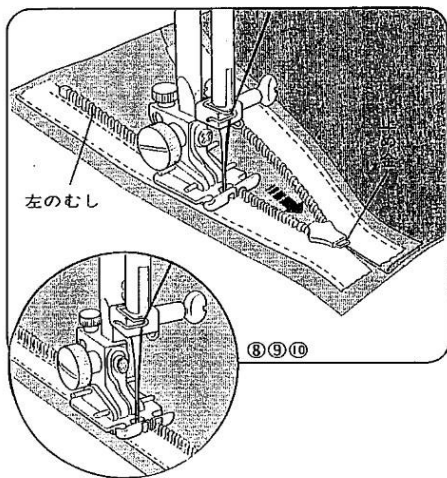
- ⑤押えをあげて、スライダーをとじる。

- ⑥押えを、右のピンにつけかえ、ファスナーの下の身頃を、右側に折り返して、左側の台布の端を、縫いしろに止め金から2~3cmのところまで縫いつける。





⑦ 押えを、左のピンにつけかえ、スライダの下身の頃を、左側に折り返して、右側の台布の端を、縫いしろに止め金から2~3cmのところまで縫いつける。

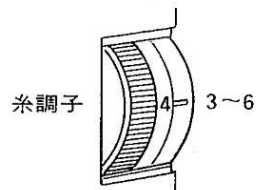


⑧ 押えを中央の位置につけかえ、しつけをほどこき、スライダの下身の頃を、右側に折り返してスライダを、止め金までいっぱいひらく。

⑨ 左のむしをおこし、押えの裏の右側のみぞに入れ、針がむしのきわを縫うように、押えの位置をやや左によせ、押えをおろす。

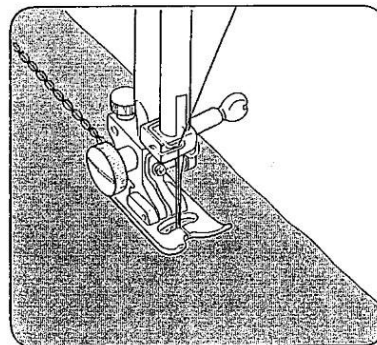
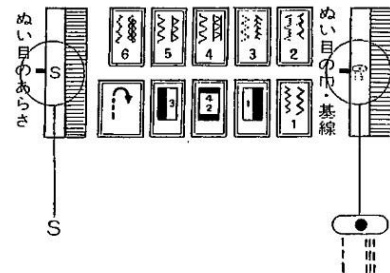
⑩ むしをおこしながらあき止まりまで縫う。

《セットの仕方》



送りダイヤル

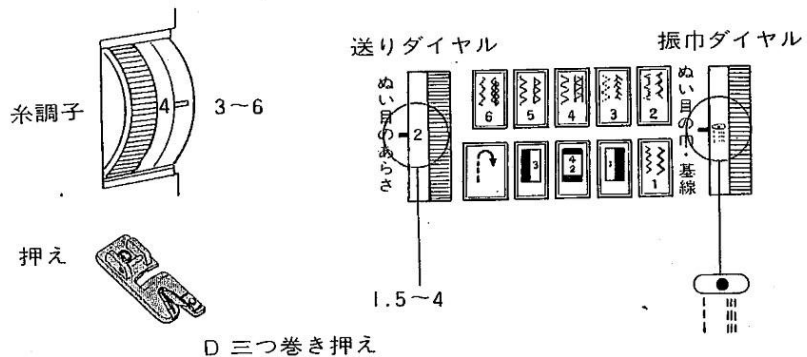
振巾ダイヤル



《縫い方》

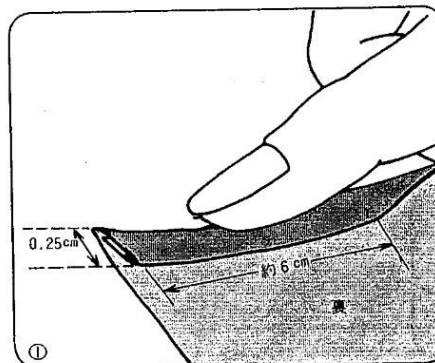
布が前後するので、縫い目が、まがらないように、注意して縫う。

《セットの仕方》

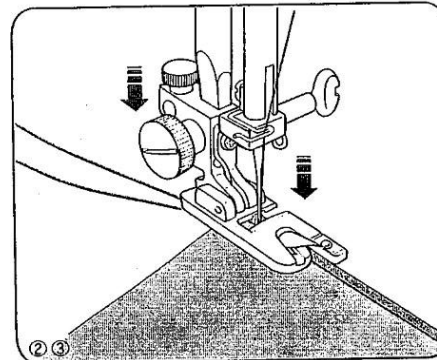


《縫い方》

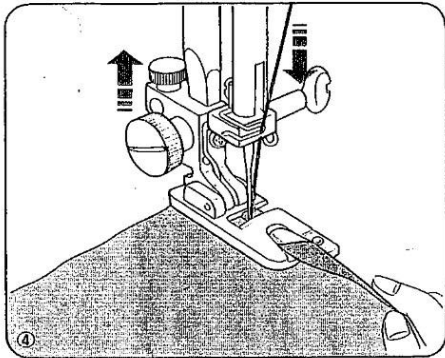
① 布端の長さ約 6 cm を、0.25 cm くらいの中で、2 度折りまげる。



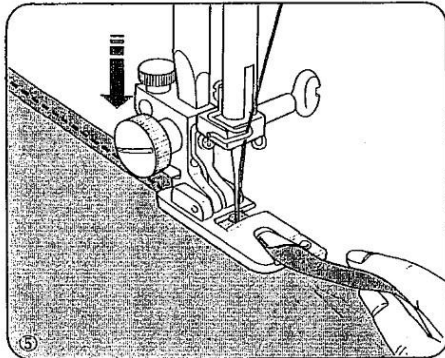
② 縫いはじめの部分に針をさし、押えをおろす。



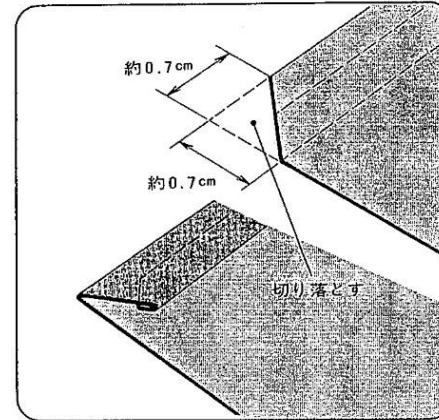
③ 上糸と下糸を、そろえて向こう側に引きながら、1 ~ 2 cm 縫う。



④はずみ車を手でまわし、針をさし、押えをあげ、折りまげた布の部分を、押えの渦の中に巻きこむ。



⑤押えをおろし、布端を立てて、やや左へ引きぎみに持ちあげながら、縫う。



《布端のしまつの仕方》

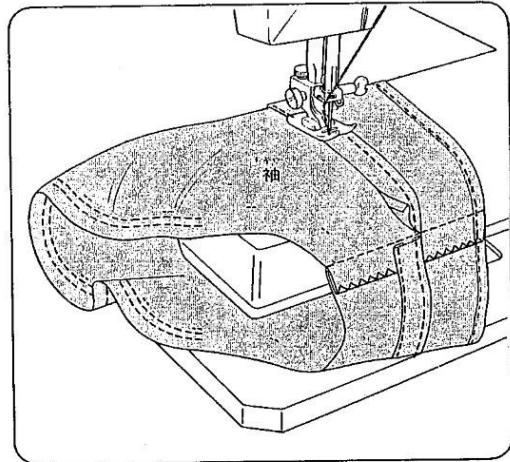
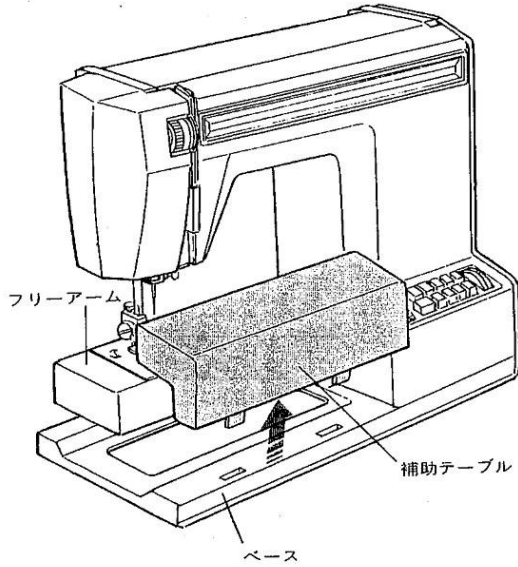
三つ巻き縫いの重なる部分は、布端を切り落として折り合わせ、厚みをうすくする。

《準備》

補助テーブルをはずす。

※補助テーブルのはずし方・つけ方は、5 ページにあります。

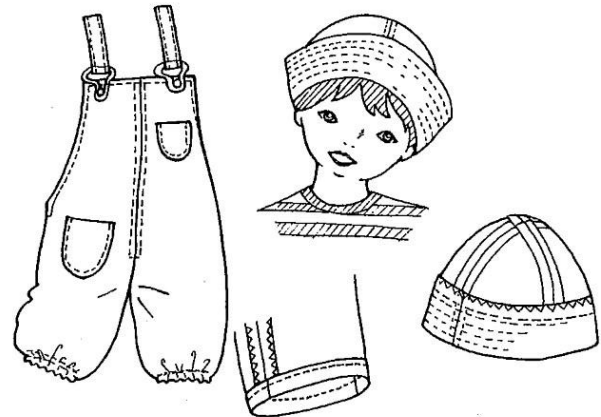
※筒縫いをするときは、フリーアームの下側やベースの上面を乾いた布でふいてください。



《縫い方》

フリーアームに、筒部を入れて縫う。

利用例



★ジグザグ模様縫い

《セットの仕方》

模様選択ボタン (赤色模様) (いずれか1つを選ぶ)

糸調子 2 0~4 送りダイヤル ぬい目のあらかさ 0.5~1 振巾ダイヤル ぬい目の巾・基線 2~5

A 基本押え

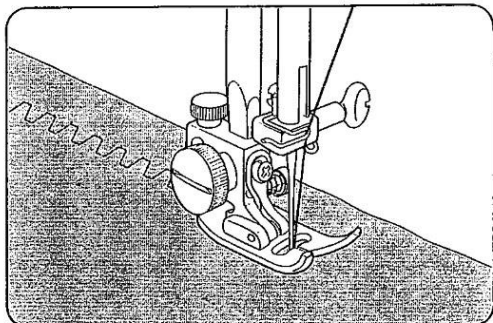
★スーパー模様縫い

《セットの仕方》

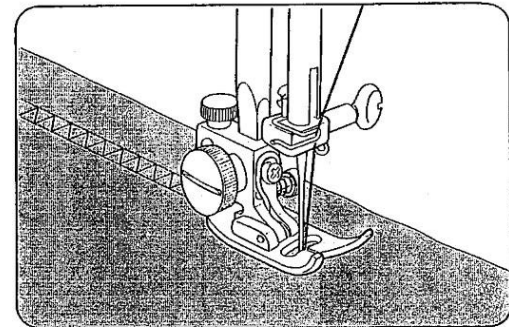
模様選択ボタン (緑色模様) (いずれか1つを選ぶ)

糸調子 2 0~4 送りダイヤル S ぬい目のあらかさ 振巾ダイヤル ぬい目の巾・基線 2~5

A 基本押え

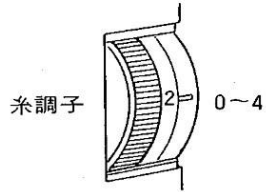


※模様選択ボタン②、③、⑥では、縫い目の巾をかえると、変化した模様ができます。かえ方は、3ページにあります。



※模様選択ボタン②、③、⑥では、縫い目の巾をかえると、変化した模様ができます。かえ方は、3ページにあります。

《セットのし方》



A 基本押え

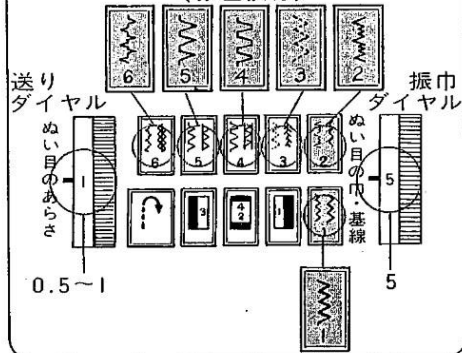
合成模様の組み合わせ例

| 模様 | ボタンの組み合わせ | 模様 | ボタンの組み合わせ |
|----|-----------|----|-----------|
| | 3+1 | | 3+1 |
| | 4+1 | | 4+1 |
| | 4+2 | | 4+2 |
| | 6+2 | | 6+2 |
| | 4+3 | | 4+3 |
| | 6+4 | | 6+1 |

0.5~1 ← ぬい目のあらし → S

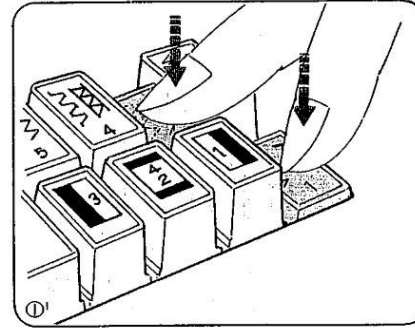
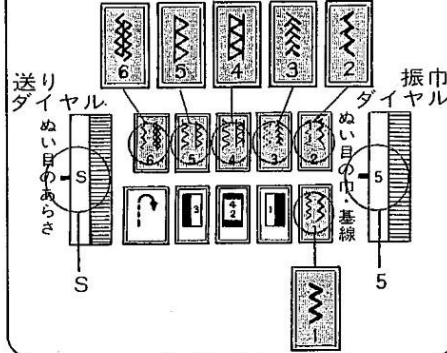
ジグザグ模様(赤色)の合成縫い

模様選択ボタン
(赤色模様)



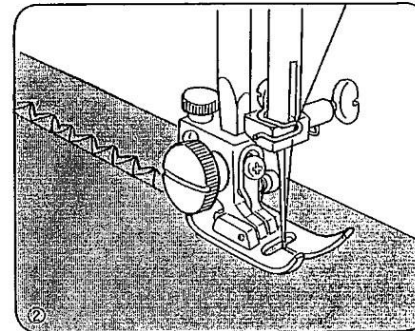
スーパー模様(緑色)の合成縫い

模様選択ボタン
(緑色模様)



① ボタンを2つ一箇に押し、模様をセットする。

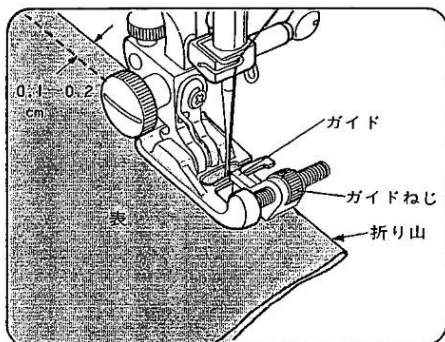
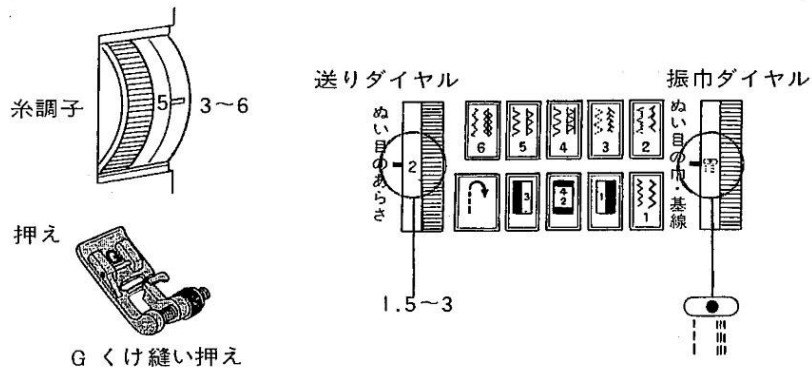
※模様は、赤色のジグザグ模様どうしか、緑色のスーパー模様どうしの組み合わせです。



② 出来あがり線に合わせる模様の位置に注意して縫う。

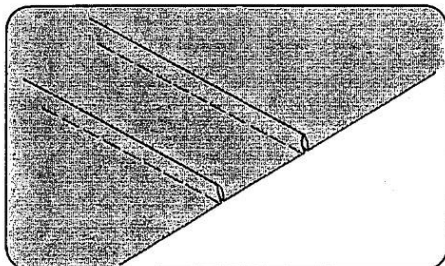
※合成模様の組み合わせ例は早見板にも表示してあります。

《セットのし方》

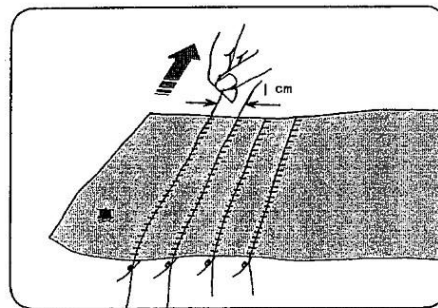
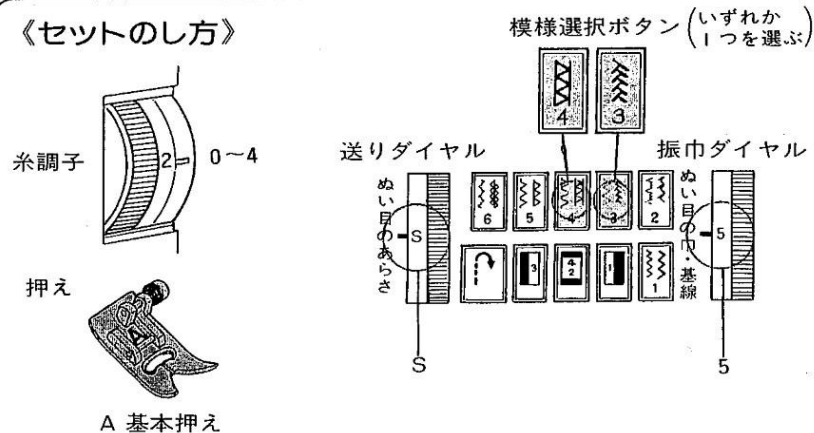


- ①はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1~0.2cm内側におりるように布を置いて、押えをおろす。
- ②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針がはずれないように縫う。

※布を前後にびんと張ってください。

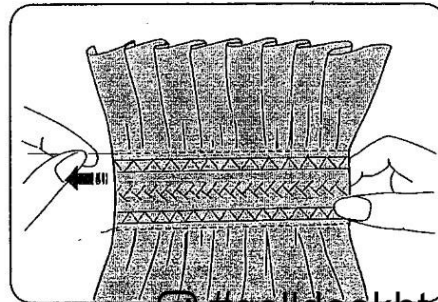


《セットのし方》



《準備》

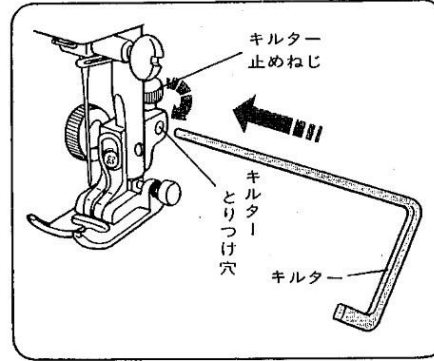
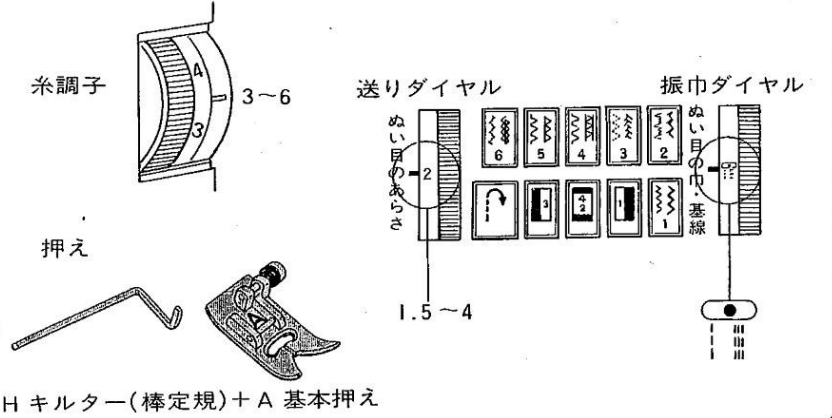
- ①上糸調子を弱くし、縫い目のあらかさ0.3~0.4cmの直線で、1cmの間かくに数本縫う。
- ②一方の布端の上糸と下糸を、むすぶ。反対側から下糸を引いて、平均にひだをよせる。よせたひだが伸びないように、上糸と下糸をむすぶ。



《縫い方》

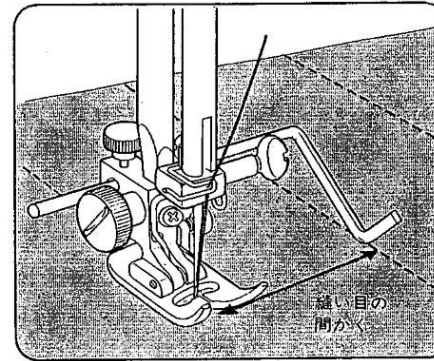
- ①直線縫いの糸と糸の間に模様縫いをする。
- ②直線縫いをした糸を抜きとる。

《セットの仕方》



《キルターのつけ方》

キルター止めねじをゆるめて、キルター(棒定規)を、とりつけ穴に入れ、縫い目の間かくに合わせて、止めねじをしめる。



《縫い目》

前に縫った縫い目を、キルターの先でたどりながら縫う。

○アップリケ

○パッチワーク(はぎ合わせ)

《セットのし方》

糸調子 0~4

押え圧ダイヤル

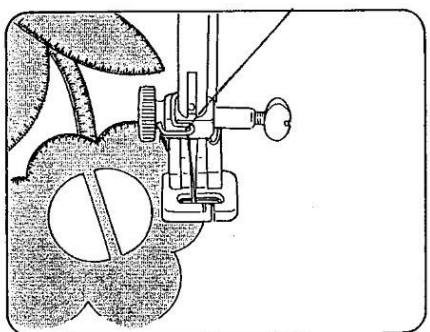
模様選択ボタン (いずれか1つを選ぶ)

送りダイヤル 0.5~1

振巾ダイヤル 2~5

F アップリケ押え

※アップリケ押えのつけ方は、9ページにあります。
 ※模様選択ボタン②では、振巾ダイヤルは「3」~「5」を目安に調節してください。
 ※縫い終わったら、押え圧ダイヤルを「3」に戻しておいてください。



《縫い方》

糊づけ、または、しつけて止めたアップリケ布の、ふちの右に針がくるようにして縫う。

※急角度のところは、針をアップリケ布の外側にさしたままで向きをかえると、きれいに仕上がります。

《セットのし方》

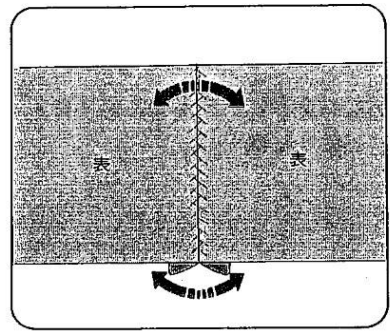
糸調子 0~4

模様選択ボタン (いずれか1つを選ぶ)

送りダイヤル S

振巾ダイヤル 5

A 基本押え



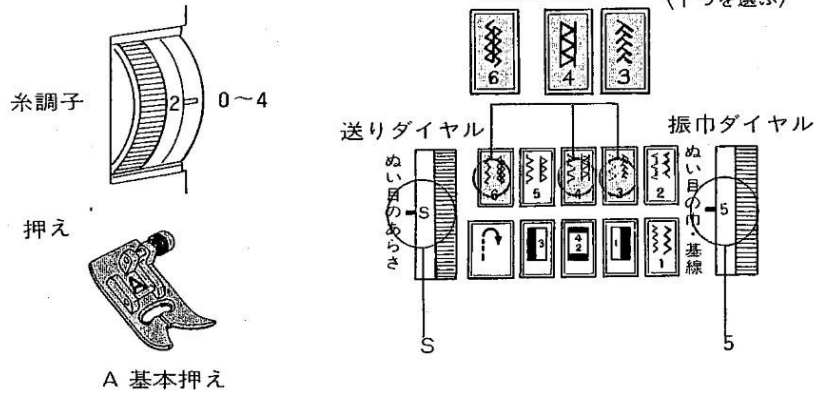
《準備》

布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろを割る。

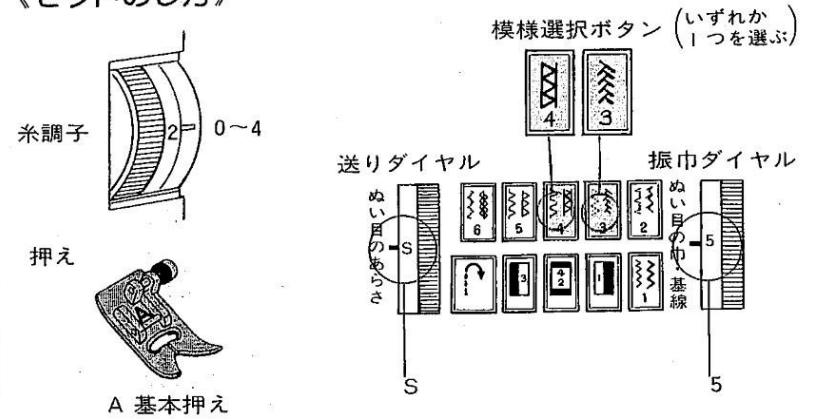
《縫い方》

布の表から、地縫いの線を中心にして縫う。

《セットの仕方》



《セットの仕方》

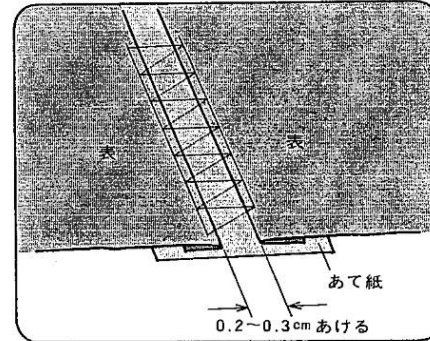
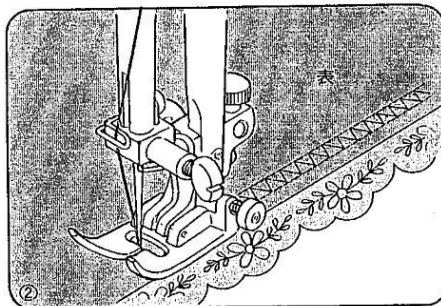
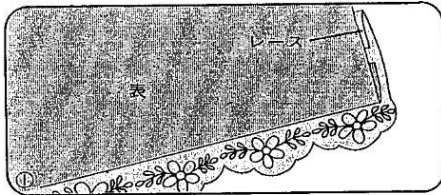


《縫い方》

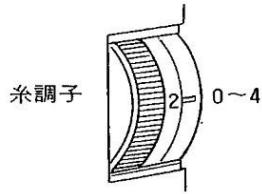
- ① 布端を裏側に、レースの端を、表側に折り返して、折り返した部分のふちを、突き合わせて重ねる。
- ② 布の表から①の突き合わせ線を中心にして縫う。

《縫い方》

- ① 布端と布端の間かくを、0.2~0.3 cmあけて、裏にあて紙をする。
- ② 布の表から間かくの中央を中心にして縫う。
- ③ あて紙をとる。

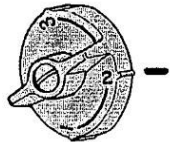


《セットのし方》

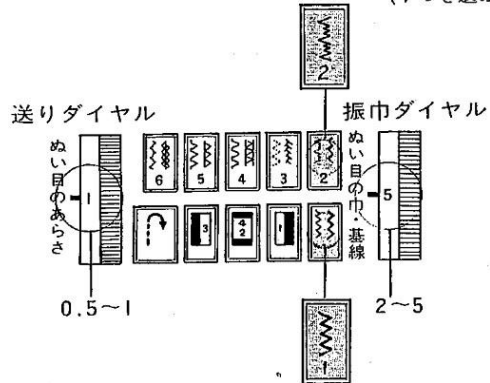


F アププリケ押え

押え圧ダイヤル

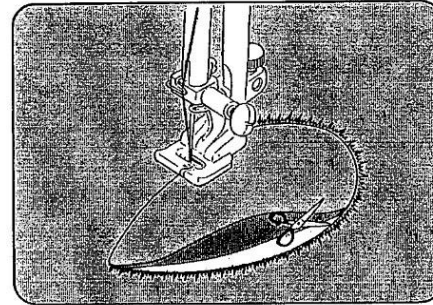
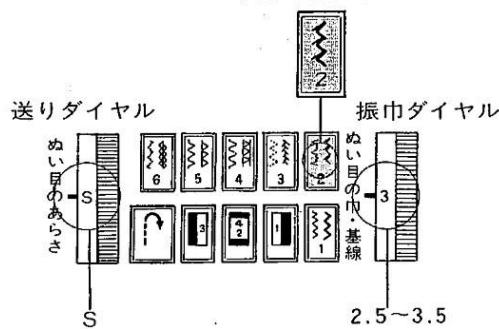


模様選択ボタン (いずれか 1つを選ぶ)



または

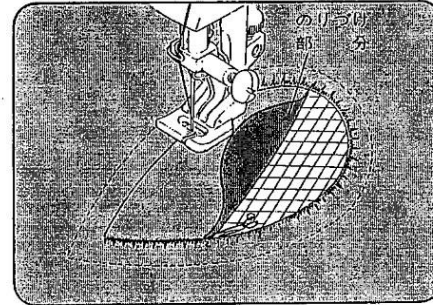
模様選択ボタン



《縫い方》

(A)

右の表から模様のふちをかがり、かかった糸を切らないように、中を切り抜く。



(B)

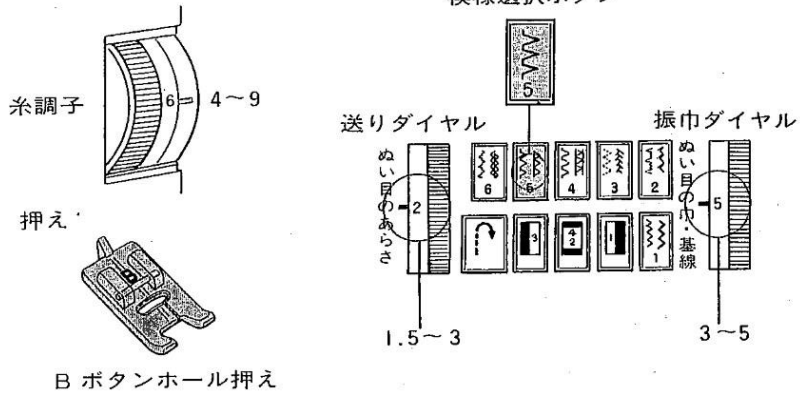
布の裏に、模様の内側にはみ出さないように、糊をつけ、チュールをはりつける。

布の表から模様のふちをかがり、かかった糸と布の下のチュールを切らないように、布を切り抜く。

※アププリケ押えのつけ方は、9ページにあります。

※縫いおわたたら、押え圧ダイヤルを「3」に戻しておいてください。

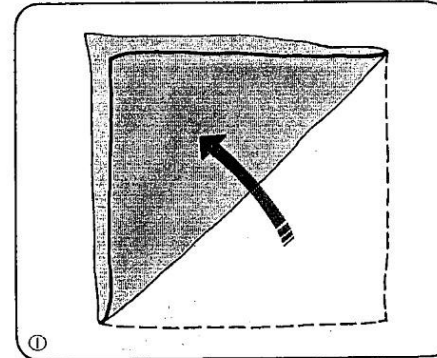
《セットのし方》



※糸調子は「4」～「9」を目安に試し縫いをして、シェルタックの山がきれいにできるように調節してください。

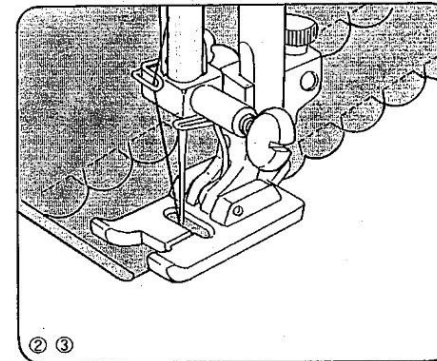
《縫い方》

① 布を、バイアスに2つ折りにする。

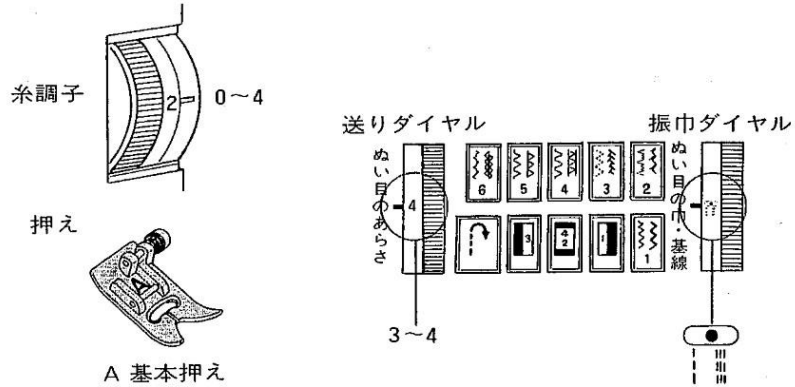


② 右の針位置が、布の「輪」の外側きわにおりるようにして縫う。

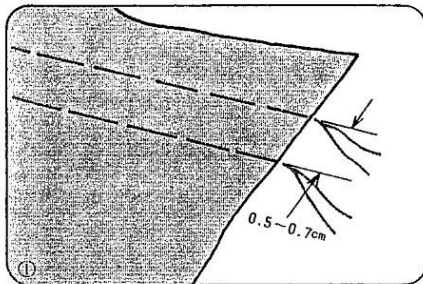
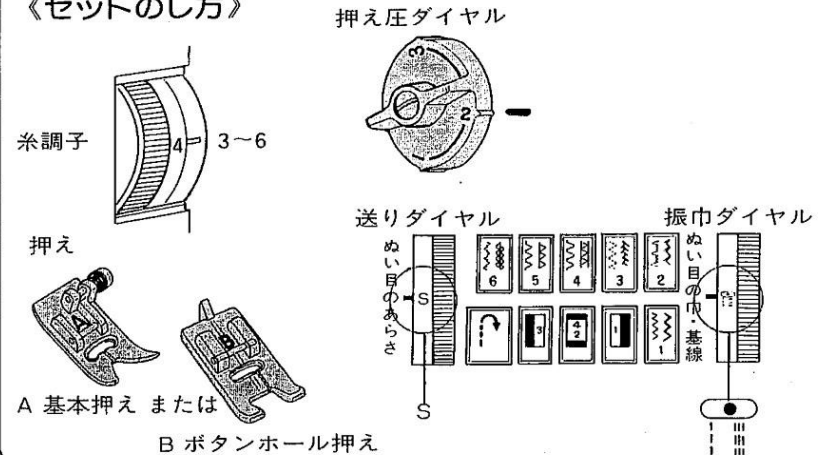
③ 布をひらいて、山をアイロンで片側に倒す。



《セットの仕方》

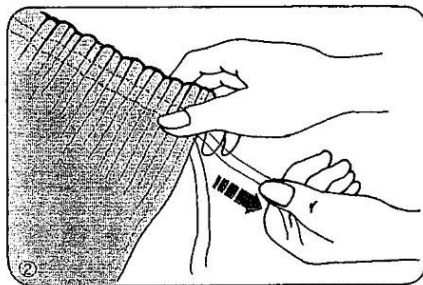


《セットの仕方》

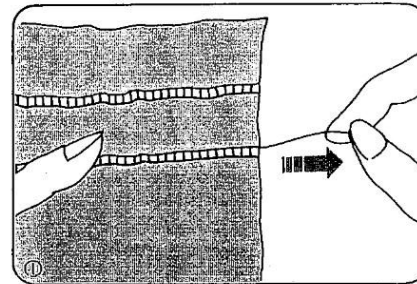


《縫い方》

①0.5～0.7cmの間かくで、2本平行に縫う。

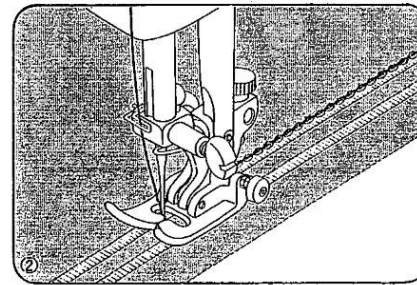


②布を軽くつまみ、上糸はそのままにして、下糸を両側から引き、平均にひだをよせる。



《縫い方》

①ドロンワークする部分の両わきの織り糸を、1～2本抜きとる。

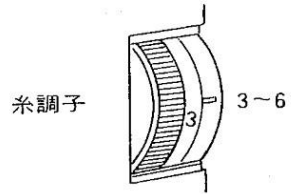


②左側の織り糸を、抜いた上を縫う。

③右側の織り糸を抜いた上を縫う。

④ドロンワークする部分の織り糸全部を、抜きとる。

《セットのし方》



押え



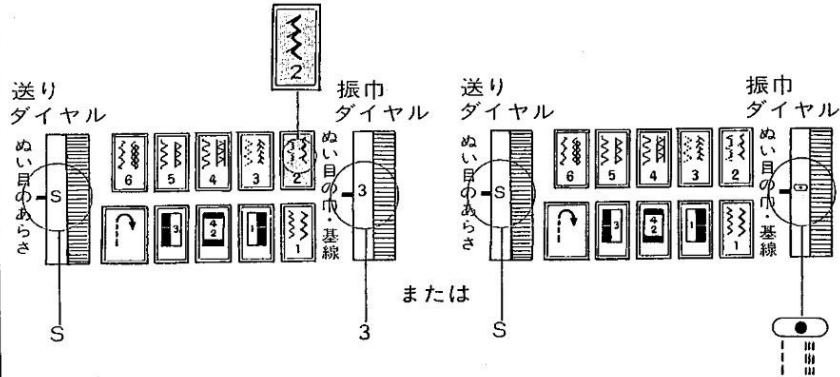
A 基本押え

または



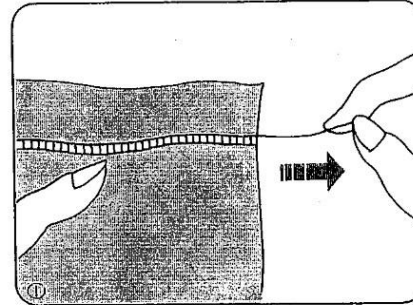
B ボタンホール押え

模様選択ボタン

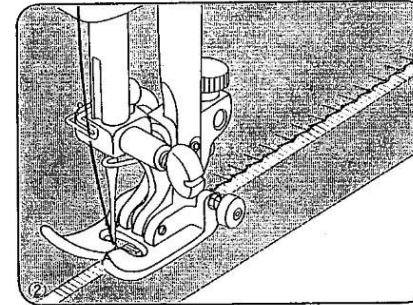


《縫い方》

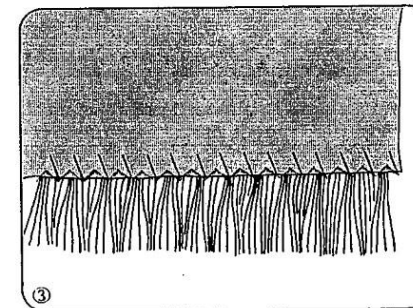
① フリンジの裏になる部分の織り糸を、1~2本抜きとる。



② 織り糸を抜いた上を、縫う。

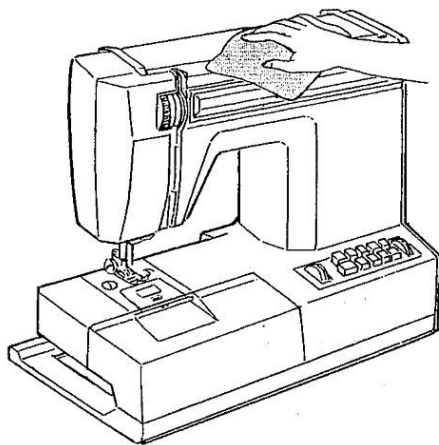


③ フリンジする部分の織り糸全部を抜き、ふさを作る。



使用後は、ゆきとどいた手入れをして、ミシンをいつも、軽快に役立ててください。万一縫い調子がおもわしくない場合は、43～44ページを参照して調整してください。

○外装の手入れ



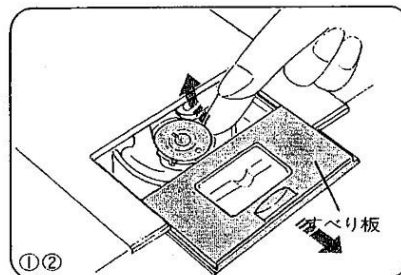
ほこりや油などの汚れは、水をつけずに、乾いたやわらかい布でふきとる。ポータブルケース、天板、面板、補助テーブルなどは、中性洗剤などで軽くふきとる。

※シンナー、ベンジン、みがき粉は、絶対使用しないでください。

※手入れをするときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。

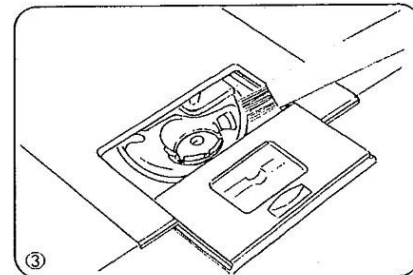
○かまの掃除

糸くずや、ほこりがつくと、縫い目じわや下糸切れなどの原因となり、また、故障の原因ともなりますので、使用の前後に確かめて、ついていたら、とり除いてください。針板をはずさないで、かまを掃除するときは、つぎの方法で行ないます。



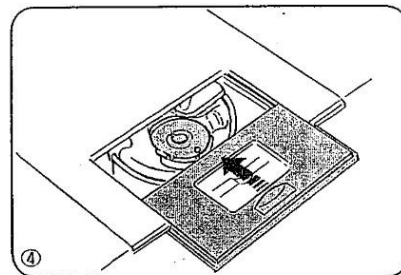
①電源プラグを抜く。

②すべり板をあげ、ボビンをとりだす。



③ごみをブラシで掃除する。

※ブラシで掃除しにくい乾いたゴミは、電気掃除機などで、吸い取ってください。



④ボビンを入れ、すべり板をしめる。

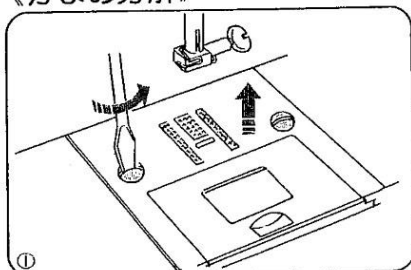
かまと送り歯の手入れ

針板をはずしてかまの掃除をするときは、送り歯の掃除をしてください。

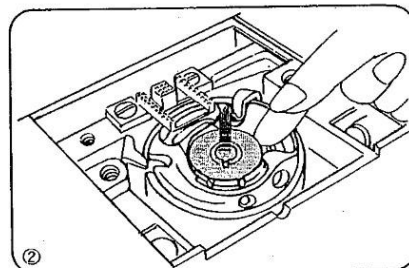
《準備》

- ①電源プラグを抜く。
- ②針と押えホルダーをはずす。
- ③手入れを終えたら、針と押えホルダーをつける。

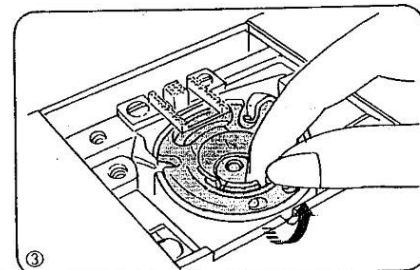
《かまの分解》



①針板のしめねじをゆるめ、針板をはずす。



②ボビンをはずす。

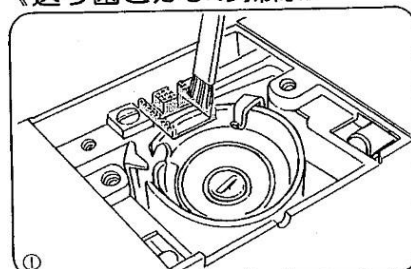


③内がまの手前を上へ引きながらはずす。

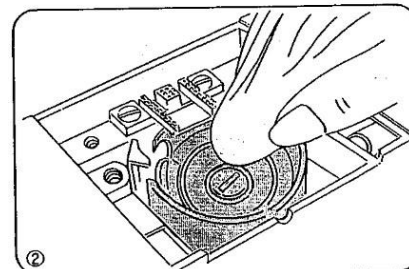
※ここに説明されている個所以外は、分解しないでください。

※このミシンは注油の必要はありません。

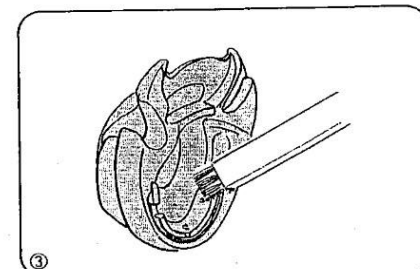
《送り歯とかまの掃除》



①送り歯のごみを、ブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除する。

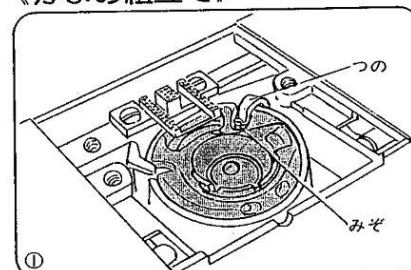


②外がまの中央部を、布切れで軽くふきとる。

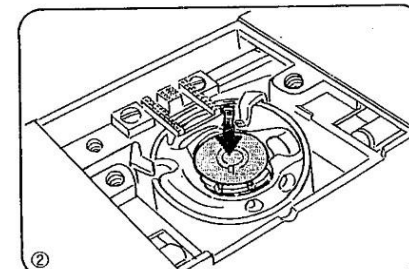


③内がまを、ブラシで掃除し、布切れで軽くふきとる。

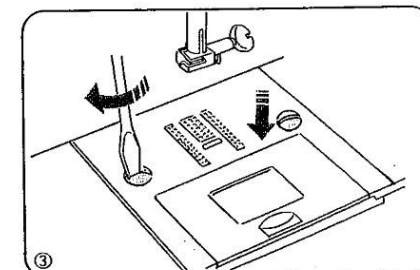
《かまの組立て》



①外がまのつのに、内がまのみぞを入れて、内がまを外がまにつける。



②ボビンを入れる。



③送り歯と針板の送り歯窓が合うように針板をのせてしめねじをしめる。

縫機の調子が悪いときの直し方

| 調子が悪い場合 | その原因 | 直し方 |
|-------------|---|---|
| 音が高い 回転が出ない | <ul style="list-style-type: none"> ①かまの部分に糸くずが巻きこまれている。 ②送り歯にごみがたまっている。 ③モーターのカーボンブラシが摩耗している。 ④モーターが故障している。 ⑤スライドスイッチが「ゆっくり」になっている。 | 41～42ページ参照 42 ページ参照 直営支店へご連絡ください。 直営支店へご連絡ください。 スライドスイッチを「はやい」にする。 |
| 上糸が切れる | <ul style="list-style-type: none"> ①上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 ②上糸調子が強すぎる。 ③針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ④針のつけ方が、まちがっている。 ⑤針板の針穴にきずがついている。 ⑥縫い終わったとき布を向こう側に引いていない。 ⑦糸が針にくらべて太すぎるか、細すぎる。 | 13 ページ参照 15 ページ参照 10 ページ参照 10 ページ参照 直営支店へご連絡ください。 16 ページ参照 10 ページ参照 |
| 下糸が切れる | <ul style="list-style-type: none"> ①内がまに下糸の通し方がまちがっている。 ②内がまの中に、ゴミがたまっている。 | 12 ページ参照 41～42ページ参照 |
| 針が折れる | <ul style="list-style-type: none"> ①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっている。 ③針止めねじのしめつけがゆるんでいる。 ④上糸調子が特に強すぎる。 ⑤縫い終わったとき、向こう側に布を引かなかった。 ⑥布にくらべて針が細すぎる。 ⑦布に針がささっているときに、模様選択ボタンを押したり、振巾ダイヤルをまわした。 | 10 ページ参照 10 ページ参照 10 ページ参照 15 ページ参照 16 ページ参照 10 ページ参照 3, 17 ページ参照 |
| 縫い目かとぶ | <ul style="list-style-type: none"> ①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっている。 ③布に対して針と糸が合っていない。 ④伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針を使っていない。 ⑤上糸の掛け方がまちがっている。 ⑥押え圧が弱い。 | 10 ページ参照 10 ページ参照 10 ページ参照 10 ページ参照 13～14ページ参照 7 ページ参照 |

| 調子が悪い場合 | その原因 | 直し方 |
|----------------------|---|---|
| 縫い目がしわになる。 | ①上糸調子が、強すぎる。 ②上糸下糸の掛け方が、まちがっていたり、糸が、必要以外の部分にからみついている。 ③布にくらべて、針が太すぎる。 ④布にくらべて、縫い目があらずすぎる。 ⑤押え圧が、合っていない。 ※特にうすい布を縫うときは、下側に紙をあてて縫ってください。 | 15 ページ参照 13～14ページ参照 10 ページ参照 縫い目を細かくする。 7 ページ参照 |
| 縫い目に輪ができる。 | ①上糸調子が、弱すぎる。 ②糸にくらべて、針が太すぎるか、細すぎる。 | 15 ページ参照 10 ページ参照 |
| 布送りがうまくいかない。 | ①送り歯に糸くずがたまっている。 ②押え圧が弱い。 ③縫い目が、細かすぎる。 ④縫いはじめで、布が送られない。 | 42 ページ参照 7 ページ参照 縫い目をあらくする。 17 ページ参照 |
| ミシンがまわらない。 | ①コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 ②かまの部分に、糸が巻きこまれている。 | 6 ページ参照 41～42ページ参照 |
| ボタン穴かがりがうまくいかない。 | ①布に対して、縫い目のあらかさが合っていない。 ②伸縮性のある布のとき、伸びにくい芯地を使っていない。 ③縫うところの布の厚みに、差がある。 ④布に、無理な力が加わっている。 | 20 ページ参照 20 ページ参照 22 ページ参照 20 ページ参照 |
| 糸通しを操作しても上糸が針穴に通らない。 | ①針にくらべて、糸が太すぎる。 ②針がまがっている。 | 10 ページ参照 10 ページ参照 |

以上の点検・調整を行なっても、なおミシンの調子が悪いときは……ジャンメミシン直営支店へどうぞ！

※ジャンメミシンでは、全国550の直営支店で万全のアフターサービスをいたしております。この本にかかっている方法で調整できないときは、どうぞ遠慮なく、近くの支店へご連絡ください。
 ※お問合わせの際は、この本をお読みになりながらお電話くださると、係員も故障の原因や個所がわかって便利です。
 ※お電話いただければ調整員がおうかがいしますから、必要以上に分解などなさらなくてください。

625-800-003 (K)



世界のミシン専業メーカー

ジャノメミシン

蛇の目ミシン工業株式会社
東京都中央区京橋3-1-1 TEL(3277)2200

